

道徳教育の研究 第56集(令和7年度)

道徳教育指導資料集(第38集)

道徳教育の実践例

【研究主題】

一人一人のよさや可能性を引き出す道徳教育の創造



夏季研修会 分科会の様子
(鴻巣市文化センター <クレアこうのす>)

目 次

あいさつ	清水 良江 会長	1
1	埼玉県道德教育研究会理事会（総会）・全体研究協議会	2
2	埼玉県道德教育研究会夏季研修会	3
(1)	夏季研修会要項	5
(2)	各分科会まとめ （基礎・基本、小学校低学年、小学校高学年、中学校の指導案・教材吟味など）	6
(3)	指導講評	26
	埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事 土井 鉄平 先生	
	さいたま市教育委員会学校教育部教育課程指導課主席指導主事 穴戸 貴久 先生	
3	「考え、議論する」道德科の実践 ～多様な指導方法の展開事例～ 夏季研修会「分科会」のまとめを受けての授業実践提案	29
	○ 小学校低学年部会（朝霞市立朝霞第三小学校 松岡 竜平 先生）	
	○ 小学校中学年部会（和光市立第三小学校 脇 亮太 先生）	
	○ 小学校高学年部会（新座市立東北小学校 武口 つかさ 先生）	
	○ 中学校部会（川口市立戸塚西中学校 堀越 龍太 先生）	
4	長期研修生報告	50
	○ 蕨市立塚越小学校 島藤 和也 先生	
	○ ふじみ野市立大井西中学校 川内 紗貴 先生	
5	埼玉県道德教育研究大会報告（ふじみ野市立葦原中学校）	63
(1)	研究概要	64
(2)	埼玉県道德教育研究大会ふじみ野大会概要	70
(3)	研究授業指導案	71
6	研究大会参加者の報告等	74
	○ 第61回全国小学校道德教育研究大会（広島大会）の報告	
	○ 第59回全日本中学校道德教育研究大会（岐阜大会）の報告	
	○ 第54回関東甲信越中学校道德教育研究大会（山梨大会）の報告	
	○ 第59回関東地区小学校道德教育研究大会（茨城大会）の報告	
7	編集委員等一覧・編集後記	77

あ い さ つ

埼玉県道徳教育研究会
会長 清水 良江

今年は大阪で国際博覧会が行われました。日本では20年ぶりの開催です。160を超える国や地域、国際機関が参加し「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに各国の英知が結集し、今後の世界の在り方を模索する機会となりました。中でも「世界の多様性」は、様々な角度から世界の国について学べる貴重な機会となりました。多様性は「違い」を大切にすることだけでなく、それぞれの「魅力」を知ることでもあると言えます。こんなに多くの国があり、それぞれに異なる価値観や暮らしがあるということを改めて知り、お互いの考えやよさを尊重するきっかけにもなりました。こうした「多様性を尊重し、互いのよさを認め合う」視点は、まさに現代の道徳教育が目指す方向とも重なるのではないのでしょうか。

埼玉県道徳教育研究会では、年に3回の様々な研修会を実施しております。そこでは、道徳に精通した講師の先生方からご講演いただいたり、県内の学校や先生方の研究実践及び成果を交流し合い、互いに語り合ったり、学び合ったりしながら指導力の向上を図っています。本研究会のよさは、県内各地域の先生方と交流ができることにあります。互いに顔と顔を合わせ、熱く語り合い、学びの深まりを実感できる場を設定しています。特に夏の研修会では、埼玉県道徳教育教材資料集「彩の国の道徳」等から教材を選定し、教材吟味や指導案作成などの演習を通して研修を深めています。県内各地の先生方との交流は、新たな視点や気づきを得ることができ、改めて学び合いの深まりを実感することができたことと思います。埼玉県道徳教育研究大会ふじみ野大会（葦原中学校）では、保護者や地域の方を交えた授業を提供していただきました。生徒と一緒に、保護者や地域の方が話し合いに加わり、異なる視点や考えに触れる機会を得ることができました。授業後は、授業者の先生と参会者の先生方との積極的な意見交換を行うことができ、新たな学びを実感したところです。

「特別の教科 道徳」が全面実施されてから小学校では早くも8年目を、中学校では7年目を迎えました。各学校では、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための授業改善が着実に進められていることと思います。各種調査の結果や教科調査官のご指導の内容から、道徳科授業の「量的確保」や「質的な転換」の面では、一定の成果が上がっていると考えられます。とはいえ、生成AIをはじめとするデジタル技術の発展や急速に変化する社会の中で子供たちが直面する課題は複雑化しています。そのため、自分はどうすべきか、自分に何ができるかを判断し、そのことを実行する手立てを考え、実践できるようにしていく道徳教育は、これまで以上に重要な役割が期待されています。そして道徳科においても、全ての子供たちのよさや可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、さらなる授業の改善・充実を図っていくことが求められています。まずは私たち一人一人が道徳科の特質を理解し、指導観を明確にして授業を展開すること、そして、ICT端末を適切な場面で効果的に活用していくことが大切です。

今年度は戦後80年の節目を迎えます。全国小学校道徳教育研究大会が行われた広島市では、平和教育を学校経営の中核に据え「対話」を重視した教育活動が推進されていました。相手の意見を大切に受け止め「対話」を通して考えを深める学びは、私たちにとっても共通のテーマであります。目まぐるしく変化していくこの社会を生き抜く子供たちにとって大切なことは、自律的に考え、他者と協調し、持続可能なよりよい社会を築いていくための豊かな心を育むことです。今後も、本研究会では道徳教育に関わる様々な課題に向けて、人と人との関わりを大切にしながら皆様とともに取り組んでまいりたいと思います。

結びに、平素よりご指導を賜っております、文部科学省、県教育委員会、各市町村教育委員会、関係諸機関の皆様にご心より感謝を申し上げますとともに、今後も変わらぬご指導ご鞭撻をお願い申し上げます、あいさつといたします。

I 埼玉県道德教育研究会理事会（総会）・全体研究協議会



会長 清水 良江



感謝状交付



全体研究協議会（講演会）

演題：「道德科の授業の更なる質的転換」

講師：十文字学園女子大学 教授

浅見 哲也 先生

2 埼玉県道德教育研究会夏季研修会



会長あいさつ 清水 良江 会長



来賓あいさつ 齊藤 隆志 先生
(鴻巣市教育委員会教育長)



基礎・基本部会 藤間 隆子 先生
(加須市立加須西中学校校長)
※元埼玉県道德教育研究会会長



小学校低学年部会 秋山 香奈子 先生
(越谷市立蒲生小学校教頭)



小学校中学年部会 芳賀 一行 先生
(深谷市立幡羅小学校教頭)



小学校高学年部会 村野 由佳 先生
(入間市立金子小学校教頭)



中学校部会 坂口 洋美 先生
(さいたま市立美園中学校校長)



分科会の様子



記念講演

演題「一人一人のよさや可能性を引き出す道德教育の創造」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

堀田 竜次 先生

(1) 第36回夏季研修会要項

1 研究主題

一人一人のよさや可能性を引き出す道德教育の創造

2 期 日 令和7年8月6日(水)

3 会 場 鴻巣市文化センター<クレアこうのす>

4 内 容

【記念講演】「一人一人のよさや可能性を引き出す道德教育の創造」

講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 堀田 竜次 先生

【分科会】☆共通課題 学習指導案の作成

基礎・基本部会

① テーマ 一人一人のよさや可能性を引き出す道德科の授業づくり

② 指 導 者 加須市立加須西中学校校長 藤 間 隆 子 先生

※元埼玉県道德教育研究会会長

司会と記録 春日部市立緑小学校教諭 中 里 佳 美 先生

伊奈町立小針小学校教諭 安 部 仁 美 先生

小学校低学年部会

① 教 材 名 「大すきなタブレットタイム」

(出典「彩の国の道德 未来に生きる」埼玉県道德教育教材資料)

② 指 導 者 越谷市立蒲生小学校教頭 秋 山 香 奈 子 先生

司会と記録 越谷市立光陽中学校教諭 佐々木和宏 先生

富士見市立関沢小学校教諭 八 谷 絢 香 先生

小学校中学年部会

① 教 材 名 「ハートがたのガム」

(出典「彩の国の道德 みんななかよし」埼玉県道德教育教材資料)

② 指 導 者 深谷市立幡羅小学校教頭 芳 賀 一 行 先生

司会と記録 入間市立豊岡小学校教諭 岩 原 綾 香 先生

さいたま市立美園小学校教諭 諏 訪 健 太 先生

小学校高学年部会

① 教 材 名 「ヘレンと共に-アニー・サリバン-」

(出典「私たちの道德 小学校5・6年」文部科学省)

② 指 導 者 入間市立金子小学校教頭 村 野 由 佳 先生

司会と記録 日高市立高根小学校教諭 渡 邊 翔 子 先生

寄居町立鉢形小学校教諭 木 村 洋 介 先生

中学校部会

① 教 材 名 「正義の声」

(出典「はばたき」さいたま市読み物資料)

② 指 導 者 さいたま市立美園中学校校長 坂 口 洋 美 先生

司会と記録 ふじみ野市立大井中学校教諭 本 島 佑 樹 先生

深谷市立幡羅中学校教諭 鴻 野 光 伸 先生

(2) 夏季研修会 各分科会のまとめ

基礎・基本部会 一人一人のよさや可能性を引き出す道徳科の授業づくり

指導者	加須市立加須西中学校	校長	藤間	隆子
司会者	伊奈町立小針小学校	教諭	安部	仁美
記録者	春日部市立緑小学校	教諭	中里	佳美

1 はじめに ー目標の重要性ー

- 行田市の田んぼアート
作り上げたいもののゴール、“ねらい”を明確にして作り上げられている。
- 東井義雄氏の詩「子どもこそは」
“目の前の児童を育てることは、未来の日本を育てること”という意識で行う教育。
- 森信三氏の言葉「立志をもって根本とする」
志をもつことが大切。志をもつことがなければ、何事も進展していかない。

2 道徳科の目標について

- 「教育」の目標
教育基本法に、“人格の完成”“道徳心を培う”と記されており、教員になると決めた時点で我々は道徳教育を背負っている。人としてよりよく生きていく判断基準となるものを身に付けるため、年間 35 時間の道徳科の授業を大切にしていける必要がある。
- 「道徳教育」の目標
道徳教育は、「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことを目指している。
これらを頭に入れた上で
- 「道徳科」の目標
道徳性を養うために、この目的に向かって
道徳的価値の理解を基に、→ 人間理解・他者理解・価値理解
自己を見つめ、→ 自分との関わりでとらえる
物事を多面的・多角的に考え、→ 1つの価値に対して多様な見方・考え方
自己の生き方についての考えを深める → 自分自身の問題として
自分の生き方への思いや願い
その学習を通して
道徳的な判断力、心情、実践意欲、態度 を育てる。→ 道徳科において育てるもの
(善悪の判断、善を喜び悪を憎む感情、実現しようという意志、具体的な行為の身構え)

3 求められる道徳科の授業

道徳科の「目標」をふまえて

- ポイント ①自分との関わりで考える授業 ②多面的・多角的に考える授業
③共に考え、語り合う授業 ④計画的・発展的に実施する授業

そのような授業をつくるための
アプローチの仕方

①自分との関わりで考える授業

- ・児童生徒に問題意識をもたせる。
- ・読み物教材の登場人物になりきらせ、自分を重ねることで“本音”を引き出す。
- ・「なぜ」「どうして」と考えや行為を支える理由を問う。
- ・「あなたはどうか考えるか、どうするか」と直接的に問う。

②多面的・多角的に考える授業

- ・異なる行為がもたらす結果から考える。
- ・様々な立場の視点で考える。
- ・心の葛藤や人間の弱さに着目して考える。
- ・社会では通用するのか、教材から離れた広い視野で考える。
- ・道徳的価値そのものを問い、その本質を考える。

③ 共に考え、語り合う授業

- ・単なる意見の発表ではなく、「話し合い」になるように発問等を工夫する。
- ・児童生徒同士で意見交換がしやすいような座席配置等、環境を工夫する。
- ・書く活動を効果的に取り入れる。(どの場面で書かせるのかを、吟味・精選する。)

④ 計画的・発展的に実施する授業

- ・安易に内容項目を入れかえたり、教材を変更したりしない。
- ・体験的な活動のみにならないようにする。
- ・学級で起きた問題の直接指導や、行事等の事前指導にならないようにする。

※意図があって変更する場合は、道徳主任と相談し、実践を振り返り次年度に生かす。

4 授業をつくるにあたって

- 教師自身がねらいとする道徳的価値を理解する。
- ねらいとする道徳的価値について、目の前の児童生徒の実態を把握する。
- 活用する教材のよさの生かし方を考える。
- 指導の意図を明確にする。
- ねらいと教材から主題を設定する。
- 児童生徒が自分事としてとらえたり、多面的・多角的に考えたりできるような、導入や展開、そして終末を考える。

大事にしたい「中心発問」

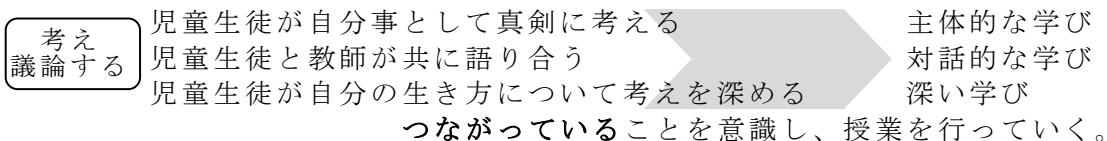
指導書を参考にするのもよいが、その前に教師自身が教材と解説書を読み、授業を構想することが大切である。教材を読んだときに、児童生徒に話し合わせたい部分が出てくる。その中でも、主人公の迷いや葛藤部分から中心発問を考えると、児童生徒の新たな価値の気づきにつながり、ねらいとする価値にせまることができる。しかし、どの教材にも当てはまる訳ではなく、迷いや葛藤の場面がとらえにくいものもある。大切なことは、教材や児童生徒の実態に合わせて“ねらいにせまる”ことを第一に考え、児童生徒の問題意識や自由な思考を引き出せる発問を考えることである。また、心の綱引きを通して、自らの生き方について、自問自答できるようにするとよい。

ICTの活用

アンケート、導入・終末での活用、子どもの意見の共有、心の可視化…等、ICTを活用できる部分は多くある。教師の発問や児童生徒同士の話し合いを大事にしながら、授業を組み立てる中で、有効に活用していきたい。

「考え、議論する道徳」と「主体的・対話的で深い学び」

道徳科の授業において、



5 教材を使った授業づくり

- ① 小学校「雨のバス停留所で」(4年生) 内容項目：C 規則の尊重

約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。

【プランニングシートを基にしたグループ協議の意見】

- ・「約束や社会のきまりを守る」ことに関して、明確な規則でない「マナー」を守ることの大切さについて考えさせる。
- ・教材後半の、よし子が自分のしたことを考え始めた場面から、中心発問を考える。「いつもと違うお母さんの横顔を見ながら、よし子はどんなことを考えていたのか」
- ・補助発問・その他の発問として、主人公よし子の“タッタッとかけ出した場面”や“じりじりした気持ちで前へ進んだ場面”の気持ちを問う。
- ・「なぜお母さんはこわい顔をしていたのか」「並んでまっている他の人たちはどう思ったのか」と主人公以外の思いも考えさせる。
- ・「みんなが気持ちよくすごせる」という視点で自分自身を見つめさせる。

【指導者助言】

- ・価値分析をする際、学習指導要領の解説をしっかりと読み、教師自身が価値の理解をしっかりとすることから始める。
- ・「目に見える、書かれているきまり」の大切さは理解できるようになってきている4年生が、そうではない社会のルール、公共のマナーをどうとらえ、どうすればみんなが気持ちよく過ごせるのか考えていく上で大事な教材である。
- ・中心発問として取り上げ考えさせたい最後の場面。「いつものお母さんとは全然違う」—ここで主人公は改めてどんなことを考えたのか。
- ・雨の中、自分は何一つ悪いことをしたつもりはない。まわりが見えず、自分のことしか考えられずに「早く座りたい」という思い。—誰にでもある人間的弱さに気付かせる。
- ・主人公よし子の気持ちにせまっていくなかに加え、周囲の人物の気持ちやお母さんの行為の理由や思いを考えさせることで、深い話し合いとなる。

② 参考 中学校「二通の手紙」 内容項目 C 遵法精神、公德心

法やきまりの意義を理解し、それらを守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

→小学校と中学校の発達の段階の違いが分かる。「自他の権利」や「規律ある安定した社会の実現」にまで広がり、教材の内容も難しくなる。

主人公元さんの姉弟を思う優しさには共感でき、よい悪いを判断するのはなかなか難しい話である。それでも、社会全体のことや相手の安全につながる規則の大事さを子供たちには考えさせたい。思いやり等、違う価値に流れてしまわないよう、教師が明確な「ねらい」をもって授業を行うことが大切である。

6 終わりに

○道徳科の授業を通して

- ・わからないことがわかった
- ・わかっていたことがもっとよくわかった
- ・今まで考えていたことが違うものになった
- ・ぼんやり、あいまいだったものがはっきりした
- ・間違いないと自信がもてた
- ・自分の足りないところが分かった
- ・こんな生き方もあると知った
- ・これからこんな行動をしたいと思えた

児童生徒に
「新たな学び」があるように！

○土台となるのは学級経営

全ての教育活動を通じて、安心して話せる＝相手の話が聞ける・受け入れられる環境をつくる。

○「ウェルビーイング」を意識して

年間 35 時間しかない道徳科の授業

“自分の強み”を生かし“目標”に向かって日々工夫改善していくことを大切に。

埼玉県道德教育研究会夏季研修会 基礎・基本部会

一人一人のよさや可能性を引き出す道德科の授業づくり



令和7年8月6日 加須市立加須西中学校 校長 藤間 隆子

教育の目的とは

教育基本法

第一条

教育は、**人格の完成**を目指し、**平和で民主的な国家及び社会の形成者**として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

教育の目標

教育基本法 第二条

- 一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、**豊かな情操と道德心を培う**とともに、健やかな身体を養うこと。
- 二 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、**自主及び自律**の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、**勤労を重んずる態度**を養うこと。
- 三 **正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力**を重んずるとともに、**公共の精神**に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 四 **生命を尊び、自然を大切に**し、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 五 **伝統と文化**を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、**国際社会の平和と発展**に寄与する態度を養うこと。

学校教育法第21条

義務教育として行われる普通教育は、教育基本法に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 一 学校内外における社会的活動を促進し、**自主、自律及び協同の精神、規範意識、公正な判断力並びに公共の精神**に基づき**主体的に社会の形成に参画**し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 二 学校内外における自然体験活動を促進し、**生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度**を養うこと。

以下十まで

道德教育の目標

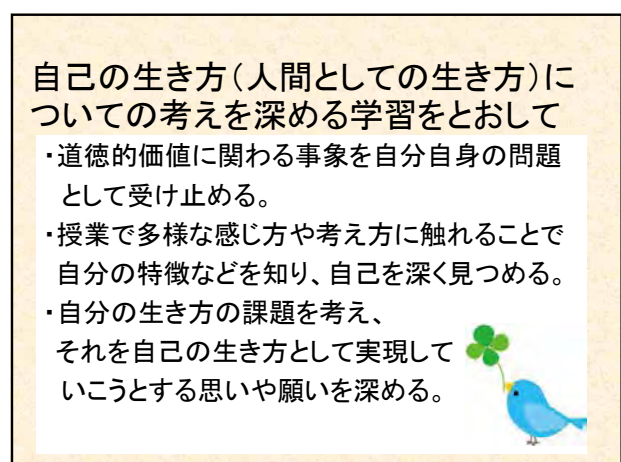
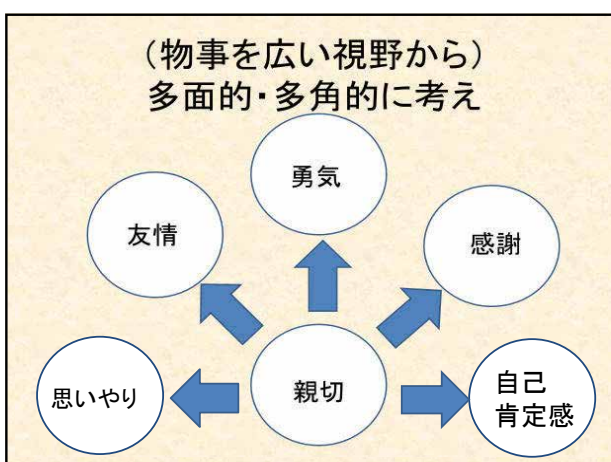
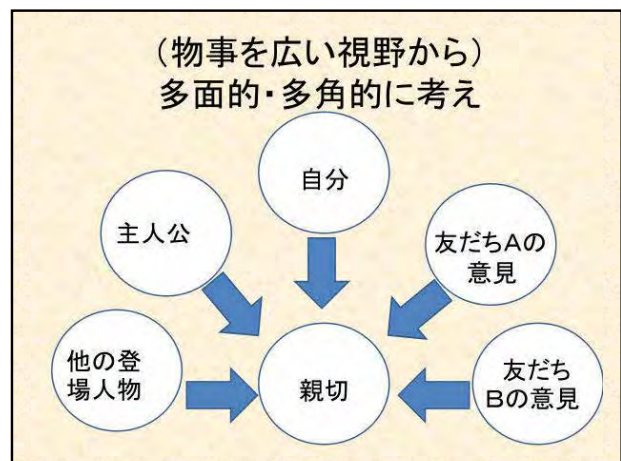
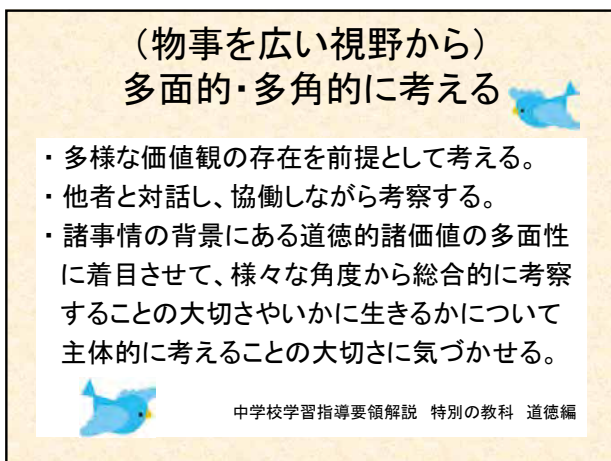
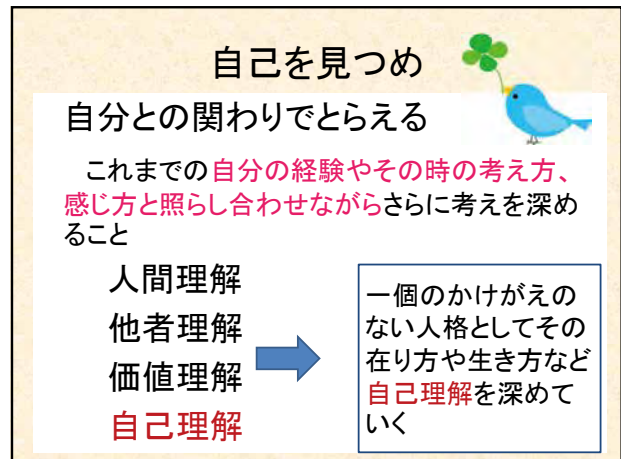
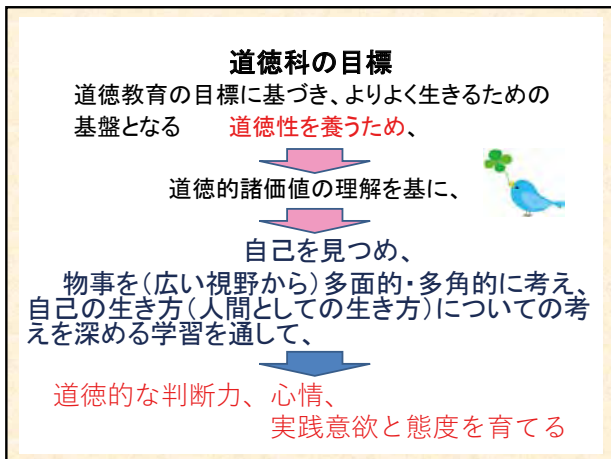
道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、

**自己の生き方を考え、
主体的な判断の下に行動し、
自立した人間として他者ととともに
よりよく生きるための基盤となる
道德性を養うことを目標とする。**

では道德性とは

- ・よりよく生きるための基盤となるもの
- ・自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となるもの
- ・人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道德性を構成する諸様相である**道德的判断力、道德的心情、道德の実践意欲と態度を養うことを求めている。**

中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編



道德的判断力、心情、 実践意欲と態度を育てる

【道德的判断力】

それぞれの場面で善悪を判断する力

【道德的心情】

道德的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情



道德的判断力、心情、 実践意欲と態度を育てる

【道德の実践意欲】

道德的判断力や道德的心情を基盤とし道德的価値を実現しようとする意志の働き

【道德の態度】

道德的判断力や道德的心情に裏付けられた具体的な道德的行為への身構え



道德科 内容項目 (19 20 22)

1善悪の判断, 自律, 自由と責任 2正直, 誠実
3節度, 節制 4個性の伸長 5希望と勇気,
努力と強い意志 6真理の探究 7親切, 思いやり
8感謝 9礼儀 10友情, 信頼 11相互理解, 寛容
12規則の尊重 13公正, 公平, 社会正義 14勤労
公共の精神 15家族愛, 家庭生活の充実
16よりよい学校生活, 集団生活の充実
17伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度
18国際理解, 国際親善 19生命の尊さ 20自然愛護
21感動, 畏敬の念 22よりよく生きる喜び

求められている道德科の授業

- 自分との関わりで考える授業
- 多面的・多角的に考える授業
- 共に考え、語り合う授業
- 計画的・発展的に実施する授業



自分との関わりで考える 授業へのアプローチ

- ・問題意識をもたせる。
- ・読み物教材を活用する際に、登場人物に自分を投影させる。
- ・「なぜ」「どうして」と考えや行為を支える理由を問う。
- ・あなたはどうか考えるか、あなたならどうするかと直接的に問う。



多面的・多角的に考える 授業へのアプローチ

- ・異なる行為がもたらす結果の面から考える
- ・登場人物を含め、様々な立場の視点から考える
- ・心の葛藤や揺れ、人間の弱さに着目して考える
- ・社会的な視点から行為を考える
- ・道德的価値そのものを問い、その本質を考えるなど



共に考え、語り合う授業のための アプローチ

- ・単なる考えの発表ではなく、「話し合い」になるようにする
- ・児童生徒同士で考えの交換がしやすいような座席配置等の工夫をする
- ・考えを書く活動については取り入れる場面を吟味し、効果的に取り入れる



など

計画的・発展的に実施する 授業のためのアプローチ

- ・安易に内容項目を入れ替えないようにする。
- ・安易に教材変更をしないようにする。
- ・体験的な活動のみの学習にならないようにする。
- ・学級で起きた問題や学校行事のための事前学習とならないようにする。



など

授業をつくるには

- ・教師自身がねらいとする道德的価値を理解する
- ・子供の実態を把握する(ねらいとする道德的価値について)
- ・活用する教材のよさをどのように生かすか
- ・指導のねらいで、指導の意図を表す
- ・ねらいと教材から主題を設定する
- ・子どもが自分事としてとらえて考えるよう、多面的・多角的に考えられるよう、導入や展開(発問)を考える
- ・終末を考える



中心発問(主発問)

- ・一般的に、主人公の迷いや葛藤をとらえて中心的な発問を考えると、話し合いが深まる。それが新たな価値への気づきにつながり、授業のねらいにせまることができる。
- ・資料によっては、迷いや葛藤の場面が捉えにくいもの、あるいは、迷いや葛藤の場面がねらいとあまり深くかわからないものもある。
- ・大切なことは資料や児童の実態に合わせ「ねらいにせまる！」ことを第一に考えること。児童生徒の問題意識や自由な思考を引き出せる発問を考えてみる。
- ・主人公の心のつなひきを通して、自らの生き方について自問自答できるようにするとよい。人間的な弱さ(自然性)と良心のつなひきを意識してみる。



ICTの活用



- ・アンケートで活用する
表、グラフ、テキストマイニング等
- ・導入や終末で活用する
- ・学級全員の子供の考えを共有する
- ・意図的に子供の考えを取り上げる
- ・子供の心を可視化する
- ・子供の考えの傾向や変容をとらえる

考え、議論する道德

【主体的な学び】(考え)

児童生徒が自分ごととして真剣に考えること

【対話的な学び】(議論する)

児童生徒、教師が共に語り合うこと

【深い学び】(議論する)


児童生徒が自分の生き方について考えを深めること



新たな学び

授業前の自分

授業後の自分



- ・わからないことがわかった
- ・わかっていなかったことがもっとよくわかった
- ・今まで考えていたことが違うものになった
- ・ぼんやり、あいまいだったものがはっきりした
- ・まちがいない、自信がもてた ・希望が見えた
- ・自分の考えの足りないところがわかった
- ・こんな生き方もあるのか ・意欲がわいた
- ・これからこんな行動をしたいな …… など

一人一人のよさや可能性を引き出す
指導と評価

指導

評価

子供の成長につながっているかなあ



認め励ます評価になっているかなあ

道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているか

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

道徳科の
授業を楽しみましょう！

【教材を使って】



そのためにも
学級づくり

授業や様々な教育活動をととして

自分の考えが素直に言えるよ

友達のことをしっかり聞くことができるよ


友達のことを受け入れることができるよ

教室にいると安心すると楽しいよ



新しい教育振興基本計画

- 2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成
- 日本社会に根差したウェルビーイングの向上



皆が幸せである学校を



ご静聴有り難うございました。

小学校低学年部会 「大すきな タブレットタイム」

(出典:「彩の国の道徳 未来に生きる」埼玉県教育委員会)

指導者	越谷市立蒲生小学校	教頭	秋山香奈子
司会記録者	越谷市立光陽中学校	教諭	佐々木和宏
司会記録者	富士見市立関沢小学校	教諭	八谷 絢香

1 内容項目について

【A 節度、節制】

〔第1学年及び第2学年〕

健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。 (中略)

健康や安全に気を付け自立した生活ができるようにするための基本的な生活習慣を身に付けること、節度をもって節制を心掛けた生活を送ることに関する内容項目である。

〔小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編 P.32〕

2 授業構想・教材吟味について

(1) 児童の実態把握

- ・内容項目に関わる児童の実態や、これまでの学習状況を確認する。

(2) 内容項目の確認

- ・学習指導要領に基づき、ねらいとする道徳的価値について明確な考えをもつ。

(3) 本時のねらいの検討

- ・児童の実態をもとに、指導の内容や教師の指導の意図を明確にする。

(4) 教材吟味

- ・児童に考えさせたい道徳的価値に関わる事項が、どのように教材に含まれているかを確認する。
- ・教材の中で、児童が気になると思う部分を予想する。
- ・ねらいに深く関わる中心発問を考える。
- ・中心発問を生かす前後の発問を考える。
 - 《発問例》◇考える必然性や切実感のある発問
 - ◇自由な思考を促す発問
 - ◇物事を多面的・多角的に考える発問
- ・話し合いを深めるための補助発問や問い返しを考える。
- ・問題意識をもたせる導入、教材の内容に興味や関心をもたせる等、導入の工夫をする。
- ・学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする終末の工夫をする。

(5) 評価の視点

- ・本時の学習活動において、どの場面で、どのように見取るのかを検討する。
- ◇児童が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうかという点。

◇道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうかという点。

(6) 指導方法の工夫

- ・ICT端末を効果的に活用できそうな場面を検討し、児童のよさや可能性を引き出す工夫をする。
- ・教材提示、書く活動、動作化、役割演技等の表現活動、板書等の工夫をする。

3 指導・助言

(1) 教材吟味について

- ・学習指導要領解説にある内容項目をよく読み込み、系統性を意識しながら、指導の内容や教師の指導の意図を明確にするとよい。
- ・児童にどのようなよさや課題があるのか、内容項目に関わる実態を把握することが大切である。その上で、本時のねらいや発問を考えていくとよい。
- ・明確な意図をもとに、教材をどのように活用すれば児童の考えが深まるのかを検討する。その際、教材の持ち味を生かしたい。

(2) 発問について

- ・話合いを深めるためには、補助発問や問い返しも重要である。児童の発言を予想しながら、その発言をどう生かすか検討し、道徳的価値について考えを深められるようにしたい。特に、道徳的価値に関わる多様な考えが出た後、どう広げ深めていくかという点がポイントとなる。
- ・グループ協議の意見でもあったように、「どうしてやめようと思ったのか?」「時間を守るとどんなよいことがあるのか?」等の発問は、多様な考えが出るところである。児童の考えを生かしながら、「このまま続けたいという思いはなかったか?」「楽しみにしていたのに・・・」と揺さぶりをかけると、さらに思考が深まっていく。
- ・「あと1問だけ」のような、人間がもつ心の弱さに共感できる部分の押さえをしないと、他人事になってしまう。話合いの中で、心の弱さに負けず、自分をコントロールできた清々しさを感じさせたい。

(3) 指導方法の工夫について

- ・導入は、解説書にあるように、「本時の主題に関わる問題意識をもたせる導入」や「教材の内容に興味や関心をもたせる導入」が考えられる。児童の思考の流れに沿いながら、「自分と関係がありそうだ」「考えてみたい」と自分事となるようにしたい。
- ・児童は、学校の教育活動や日常生活の中で、様々な道徳的価値に触れている。授業では、その体験したことや感じたこと、考えたことを生かして考えを深める工夫をすることも大切である。
- ・ICT端末を活用することで全児童の考えが把握でき、様々な考えを引き出すことができる。ICT端末を活用したことで生み出された時間があれば、話合いの場面でじっくりと話し合う等、時間を有効活用できる。

(4) 授業づくりで大切にしたいこと

- ・日頃から何でも話し合える学級の雰囲気づくりが大切である。
- ・教師も児童と共に生き方について考える姿勢を大切にしてほしい。

道徳科学習指導案

小学校低学年部会

- 1 主題名 じかんを たいせつに [内容項目 A 節度、節制]
 2 ねらい タブレットに夢中で時間を守れなかったそうたの気持ちを考えることを通して、時刻を守り、時間を大切にしようとする態度を育てる。

教材名 大好きな タブレットタイム (出典：彩の国の道徳「未来に生きる」埼玉県教育委員会)

3 主題設定の理由 (略)

- (1) ねらいや指導内容について
 (2) これまでの学習状況及び児童の実態について
 (3) 教材の特質や活用方法について

4 学習指導過程

	学習活動〈主な発問〉	予想される児童の反応	指導上の留意点☆評価の視点
導入	○時間に関する質問をする。 「あとちょっとだけ」となりやすい時はどんな場面かを考える。	・ゲーム ・遊び ・おしゃべり ・タブレット ・テレビ ・漫画	・児童の実態がわかるような質問をする。 ・ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
展開	○教師の読み聞かせを聞く。 ○あと1問あと1問と解いていた時のそうたの気持ちはどんな気持ちだっただろう。 ○2日目は、もう少しで葉っぱが開きそうだったのになぜ片付けられたのかを考える。	・やっとな芽が出て嬉しい。 ・もっと大きくするぞ。 ・勉強しているからいいや。 ・約束を守れなかった。 ・ブランコができない。 ・約束を守らないといけない。 ・昨日失敗したから。 ・時間を守らないと。	・そうたがタブレットに夢中になる気持ちに共感させる。 ☆時刻を守ることの大切さについて、多面的・多角的に考えている。(発言、ワークシート)
開	○葉っぱを見ることができなかったが、すっきりした理由を考える。	・ブランコができた。 ・約束を守ることができた。 ・やりたいことが両方できた。 ・頑張った。 ・前より自分が成長できた。	・節制が出来た時のそうたの気持ちを考えることで、時間を大切にするよさに気づき、自分もそうありたいと思えるようにする。
終末	○自分自身を見つめ、振り返る。 ○教師の説話を聞く。	・時間を守ることは大切。 ・みんなに迷惑をかけてはいけない。	☆これまでの自分を振り返り、時間を守ることのよさを知り、気持ちのよい生活について自分との関わりで考えている。(発言・記述)

5 他の教育活動との関連

- ・内容項目 A 節度、節制の教材を活用し、決まった時間に寝起きしているか自己の生活を振り返り、規則正しい生活について考える。
- ・日常生活の中で本時のねらいに即した行動を取り上げて、そのよさを全体で話し合う。また、その行動ができた時、どんな気持ちになったか気持ちの共有を行う。

6 評価の視点【学習指導過程参照】

小学校中学年部会 「ハートがたのガム」

(出典：彩の国のどうとく「みんななかよし」埼玉県教育委員会)

指 導 者	深谷市立幡羅小学校	教頭	芳賀一行
司会記録者	さいたま市立美園小学校	教諭	岩原綾香
司会記録者	入間市立豊岡小学校	教諭	諏訪健太

1 道徳科の授業のポイント

- ・ 子供の視点に立って、子供のことを考えて授業を考える。
- ・ 道徳科の特質を踏まえる。

- (1) 道徳的諸価値について理解する
- (2) 自己を見つめる
- (3) 物事を多面的・多角的に考える
- (4) 自己の生き方についての考えを深める



内面的資質として、道徳性を主体的に養う時間

目に見えないもの
を主体的に
養っていく

- ・ 個人の学びを大切にしてから→ペアやグループ活動へ
- ・ 発表をさせたら、理由を聞いたり、切り返し・問い返しをしたりする。
- ・ 無理に書かせる必要はない。☆何のために書かせるのかを考える。
- ・ 児童の心の内や考えていることを見える化する。→ICT 機器の活用も積極的に
- ・ “活動あって学びなし”にならないように意識する。

2 プランニングシート作成にあたって(教材の吟味について)

- ・ 指導の内容や教師の指導の意図を明らかにする。
→どのような1時間にしたいのかを大切にする。
- ・ ねらいに関する児童の実態と、それを踏まえた教師の願いを明らかにし、各教科等での指導との関連を検討して、指導の要点を明確にする。
- ・ 授業者は「児童に考えさせたいところはどこか、何か」を考えて、教材文を読む。

- (1) ねらいとする内容項目の視点で読む
- (2) ねらいとする道徳的価値に関わって、児童に最も考えさせたい場面を明らかにし、ねらいにせまるための発問を考える
- (3) 最も考えさせたい場面での話し合いを充実させるために、その前後で有効となる発問を考える
- (4) 児童の反応を予想し、話し合いを深めるための補助発問等を考える
- (5) これまでの経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら、さらに考えを深める発問を考える
- (6) 教材提示の工夫や関心が高まるような導入や終末等の工夫を考える
- (7) 道徳科に生かす指導方法の工夫を考える

3 考え、議論する道徳の授業の実現に向けて

- ・ 授業者は、明確な指導の意図をもつ。
- ・ 主体的に自分との関わりで、協働的に多様な考え方、感じ方と出会い交流するように。

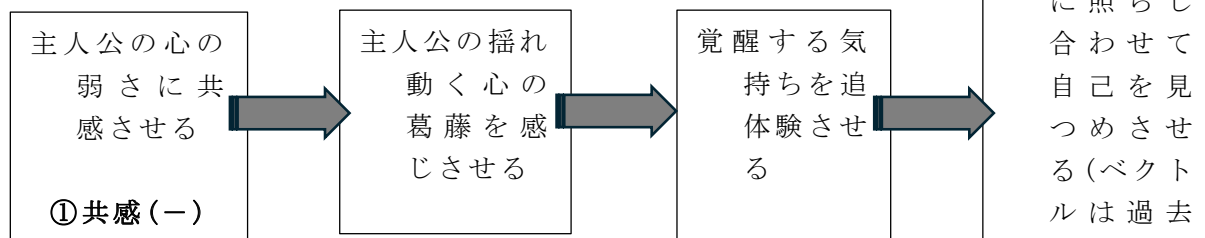
4 指導・助言

- ・ 道徳科で大切にしなければいけないことは・・・目に見えないもの
- ・ 価値理解、他者理解、人間理解の3つの理解について考えさせる時間が1時間の学習過程の中に入っているかどうか大切である。

価値理解	道徳的価値のすばらしさ・よさを理解すること
他者理解	道徳的価値についての感じ方・考え方の多様さ
人間理解	道徳的価値の実現の難しさ、人間の弱さ

- ・ 教材を媒介して、心の交流をすることが大切である。

☆教材のよさを生かす



- ①導入では、問題意識をもたせる。

→アンケート結果を提示するなどを行う。モヤモヤや違和感を抱かせ、考えることの必要性を感じさせる。

- ①共感(－)

マイナスの気持ちをたくさん出させる。1つ目の発問は、誰もが答えやすいものを。

- ②葛藤(＋－)

問い返し(確認、焦点化、根拠、理由、言い換え、比較、具体化)や切り返し(批判、範例)を多く行う。

見えないもの→見える化 ねらいに向かっていく。

「モヤモヤする」「どうしよう」に時間をかける。

- ③覚醒(＋)→自己を見つめる

ねらいにせまる時間。

自己の生き方について考えさせる。

自らを振り返るための時間と空間を確保し、交流する。

- ④終末

児童の実態に応じて行う。説話、ことわざや格言『私たちの道徳』の紹介、感想発表。

- ・ 道徳性は、教材を使って膨らませる。
- ・ 価値理解、他者理解、人間理解を通して自己理解へつなげる。

☆常に自分と関わらせながら

- ・ 道徳科に生かす指導方法の工夫

ア 教材を提示する工夫：紙芝居、影絵、人形やペープサートを生かした劇

イ 発問の工夫：必然性、切実感、自由な思考を促す、多面的・多角的に考える

ウ 話合いの工夫：座席の配置、討論形式、ペアの対話、グループによる話合い

エ 書く活動の工夫：必要な時間の確保、1冊のノートの活用

オ 動作化、役割演技の工夫：即興的に演技、動きや言葉を模倣

カ 板書を生かす工夫：対比的、構造的、中心部分を浮き立たせる

キ 説話の工夫：教師の体験や願い、所感、生活問題、新聞、雑誌、テレビなど

道徳科学習指導案

小学校中学年部会

- 1 **主題名** 勇気をもって〔内容項目 A 善悪の判断, 自律, 自由と責任〕
- 2 **ねらい** 主人公の行動について話し合うことを通して、正しく行動することの難しさに気がつき、正しいと判断したことは、周囲の人や自分の弱さに負けずに、自信をもって行う態度を育てる。

教材名 ハートがたのガム（出典：彩の国の道徳「みんななかよし」）

3 主題設定の理由（略）

- (1)ねらいやこれまでの指導内容について
- (2)これまでの学習状況及び児童の実態について
- (3)教材の特質や活用方法について

4 学習指導過程例

	学習活動（主な発問）	予想される児童の反応	指導上の留意点☆評価の視点
入	1 自分の生活を想起する。 ・正しくないと分かっているのにやってしまったことはあるか	・ある／ない ・廊下を走ってしまった ・掃除中にふざけてしまった	・本時の内容を自分事としてとらえさせる。 ・善悪の判断はできるだけ、行動に移すことができる人が少ないことに気がつかせ、問題意識をもたせる。
	正しいことを行うためにはどんな気持ちが必要だろう。		
開	2 条件・状況を説明する。 3 読み聞かせを聞き、話し合う。 ・あきにガムをさし出されたとき、かずみはどう思ったでしょう。 ・なぜ、かずみは「ドキン、ドキン」と大きな音を立てているのでしょうか。 ◎かずみは、手のひらのガムをじっと見つめてどんなことを考えていたのでしょうか。（中心発問） 4 本時の学びから課題について考える。	・断れないからもらうしかないな ・いけないことだよね ・断ったら親友じゃなくなってしまうかもしれない ・いけないと分かっていることをしているから ・友達や先生にみつかったらどうしようと思っているから ・はっきりと断ればよかったなあ ・友達に注意すればよかった ・正しいと思うことをする勇気、正義感	・教材文の見通しがもてるように簡潔に提示する。 ・主人公の気持ちに共感させ、道徳的価値を実現する際の難しさについて考えさせる。 ☆かずみの姿に自分を重ね、友達の意見と自分の考えを比較しながら考えを深め、話し合っている。 ・主人公の揺れ動く感情を多面的・多角的に考えさせる。 ☆自分自身、人との関わり、社会や集団との関わりの中で、正しいことは自信をもって行動するために大切なことを考えている。
末	5 自己を見つめ、振り返る。 6 教師の説話		・これまでの生活を振り返りながら、よりよい生き方について考えさせる。

5 他の教育活動との関連（略）

6 評価の視点（略）

小学校高学年部会 「ヘレンと共にーアニー・サリバンー」

(出典:「私たちの道徳 小学校5・6年生」文部科学省)

指導者	入間市立金子小学校	教頭	村野 由佳
司会者	日高市立高根小学校	教諭	渡邊 翔子
記録者	寄居町立鉢形小学校	教諭	木村 洋介

1 道徳科について

「特別の教科 道徳」の目標は以下のとおりである。

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳科は学級経営の支えである。教材を通して、児童が「何を、どのようにがんばりたいのか」を知る機会となる。「教師と児童が共にある」ことを意識し、教師と児童が考えを伝え合いながら、一緒に授業をつくることが望ましい。

2 教材分析について（「道徳科授業プランニングシート」をもとに）

授業で最も考えさせたい「中心発問」を考えるうえで、「道徳科授業プランニングシート」の(1)から(3)にも示された次の3点を大切にする必要がある。

(1) 価値の分析

『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』に示された内容項目や道徳的価値は、「児童自らが道徳性を養うための手掛かり」となるものである。本時でおさえるべきポイントは何かを必ず確認する。

(2) 児童の実態

自己の生き方についての考えを深めることができるよう、実態に応じた指導をしていくことが大切である。扱う内容項目についての児童の「できない」を把握し、「できる」ようにするのではなく、「伸ばしたいところはどこなのか」を大切にする。

(3) 明確なねらい

児童が自分自身を見つめられるよう、道徳科の内容項目を基に、児童に考えさせたい道徳的価値や育てたい道徳性の様相を明確にする。

これらを踏まえ、「(5)中心発問」を考えることが重要である。

中心発問が決まった後に、「(6)補助発問」や「(7)その他の発問（中心発問につなげる前後の発問）」を考え、それらの発問につながる「(8)自分を見つめさせる発問（振り返り）」、

「道徳科授業プランニングシート」より

- (1) 価値分析
- (2) 児童の実態
- (3) 明確なねらい
- (4) 教材をどう生かすか
- (5) 中心発問
- (6) 補助発問
- (7) その他の発問
- (8) 自分自身をみつめさせる発問(一般化)
- (9) 導入
- (10) 終末

「(9)導入」、「(10)終末」を吟味し、授業を構想していく。「(4)教材をどう生かすか（指導の工夫）」については、目的ではなく手段であることを理解し、効果的な活用のために検討する必要がある。

なお、「(8)自分を見つめさせる発問（振り返り）」については、児童が自己を見つめられる時間を十分に確保し、個々の学びの姿に対する励ましの言葉をかけられるとよい。

また、「(10)終末」は、教師にとっては「自分の思いを伝える機会」、児童にとっては「自己をみつめ、考える機会」となる。授業後にあたたかい雰囲気になるよう、余韻をもって終わらせることが望ましい。

3 指導・助言

(1) 関連する内容項目について

教材によって、複数の内容項目が関連するものもある。そのため、教材を一読した際の気づきや違和感を大切に、児童の思考の広がりを意識して教材研究を進められるとよい。本教材は、内容項目「A 希望と勇気、努力と強い意志」だけでなく、「C 相互理解、寛容」も関連していると考えられる。

(2) 発問構成について

実態に合わない難しい発問ばかりでは、児童は考えることができなくなってしまう。「はい」や「いいえ」でも答えられるような発問も用意し、易しい→難しいとなるように発問構成をするとよい。

(3) 多面的・多角的な思考について

物事を多面的・多角的に考えるためには、自分の考えだけでなく他者の意見に耳を傾けることが重要である。それにより、A→BやCといった考えの広がりや、A→A'のような考えの深まりにつながる。他者との関わりの場を意図的に設定するとよい。

(4) 切り返しの発問について

児童が教材理解にとどまらないよう、徐々に価値の一般化に向かえるようにする必要がある。児童の経験や既習事項とのつながり、日常へのつなぎとなるような、実態に応じた切り返しの発問を用意しておくとうい。

(5) 納得解について

児童自身が、自己を見つめながら本時の学習を振り返り、「納得解」がもてるとよい。留意すべきは、「自分の納得解」にとどまらないようにすることである。「自分よし、友達よし、社会よし」の「三方よし」や、さらに「世界よし」を加えた「四方よし」となる納得解をもてることが望ましい。

(6) 道徳科と学級経営について

道徳科は学級経営の支えとなる。逆もまた然りである。教師と児童が共にあることを意識できるとよい。

道徳科学習指導案

小学校高学年部会

- 1 主題名 希望をもってくじけずに [内容項目 A 希望と勇気、努力と強い意志]
- 2 ねらい 困難があっても努力し続けたアニーの思いを考える活動を通して、努力することのよさに気づき、困難があってもやり抜こうとする態度を育てる。

教材名 ヘレンと共に―アニー・サリバン― (出典：「私たちの道徳 小学校5・6年生」文部科学省)

3 主題設定の理由（略）

- (1) ねらいや指導内容について
- (2) これまでの学習状況及び児童の実態について
- (3) 教材の特質や活用方法について

4 学習指導過程

	学習活動（主な発問）	予想される児童の反応	指導上の留意点☆評価の視点
導入	1 努力について考える。 ・難しいことでも、チャレンジすることができますか。やり続けることができますか。	・できない ・諦めてしまうかもしれない	・ねらいとする道徳的価値についての問題意識がもてるよう、事前のアンケートの結果を ICT で提示し、課題につなげる。
	困難なことがあっても、努力を続けるために大切な思いは何だろう。		
展開	2 教材の登場人物、条件・状況について知る。 3 教材の読み聞かせを聞き、話題をもとに話し合う。 (1)アニーは、ヘレンの家庭教師を頼まれたとき、どのような気持ちになったでしょう。 (2)周りに陰口を言われたときのアニーは、どのようなことを考えていたでしょう。 (3)困難なことがあっても、努力を続けるために大切な思いは何だろう。	<条件・状況> ・ヘレンの役に立ちたい ・自分がしてもらったことを誰かに返したい ・やめたい、つらい ・ヘレンのために頑張りたい ・きっとわかってくれる ・自分の強い思い ・目標に向かって頑張る姿勢	・教材についての見通しがもてるよう、条件・状況を簡潔に示す。 ・発問につなげられるよう、アニーの思いを考えながら範読を聞くよう伝える。 ・アニーの「誰かの役に立ちたい」という思いに気付かせられるよう、アニーの気持ちに共感させる。 ・多面的・多角的な視点で考えられるよう、アニーのもつ葛藤を考えさせる。 ☆アニーに自分の気持ちを投影して様々な視点から考えている。 ・価値について汎用的に考えられるよう、教材から少し離れた発問をし、自分事として考えさせる。
	4 今までの自分を振り返り、努力するうえでの大切な思いを考える。		☆これまでの自分を振り返りながら、努力するうえで大切なことを考えている。
終末	5 教師の説話を聞く。		・余韻をもって終えられるよう、失敗しても努力してよかったという教師の体験を話す。

5 他の教育活動との関連（略）

6 評価の視点（学習指導過程参照）

中学校部会 「正義の声」

(出典：「さいたま市読み物資料 はばたき」さいたま市教育委員会)

指 導 者	さいたま市立美園中学校	校長	坂口洋美
司会記録者	ふじみ野市立大井東中学校	教諭	本島佑樹
司会記録者	深谷市立幡羅中学校	教諭	鴻野光伸

1 一人一人のよさや可能性を引き出す道德の授業を行うために

- (1) 道德的価値に照らしながら生徒の実態を把握し、よさや課題を見つける。
- (2) 予想される生徒の反応を踏まえて、ねらいにどう迫るか熟考する。

2 授業づくりについて

教材名「正義の声」(出典：さいたま市道德読み物資料集「はばたき」)

内容項目C 公正、公平、社会正義

<教材分析について>

- (1) 主題とねらいを考える
- (2) 子供の実態・教師の願いの確認
- (3) 登場人物、条件、状況の確認
- (4) 話題につなげたい場面の整理
- (5) 中心発問、補助発問を考える
- (6) 導入や終末等、学習指導過程全体を考える。※今回は問題解決的な学習で構成した。

(導入)～問題の発見～ 道德的な問題の発見や道德的価値を想起する

- ・教材や日常生活から道德的な問題を見つける。
- ・これまでの道德的価値のとらえ方を想起し、道德的価値の本当の意味や意義への問いをもつ。

(展開前段)～問題の探究～ 道德的な問題状況の分析や、解決策を構想する

- ・なぜ問題になっているのかを分析する。
- ・問題をよりよく解決するための解決策を構想し、多面的・多角的に検討する。

(展開後段)～探究のまとめ～ 解決策の選択等を通して振り返り、道德的価値の理解を深める

- ・問題解決に向けて大切にしたい道德的価値について、なぜそう思うのかなどについて話し合い等を通じて、考えを深める。
- ・考えた解決策を身近な問題に当てはめ、自分の考えを再考する。
- ・問題の探究を振り返って、新たな問いや自己の生き方の課題を導き出す。

(終末) 価値に対する思いを温め、道德的実践意欲を高める

- ・価値を押し付けることなく、生徒一人一人が納得解を得ることを大切にする。

3 タブレット端末の活用について

- ・生徒一人一人の記述内容を提示して学級全体で共有する
- ・個々の意見を読み合い共感できるものに意思表示(いいね等)をする
- ・心情円を作成し、全体で共有し話し合うなど

→上記を生徒の実態や道德科の特質に応じて用い、より効果が得られる場面で活用する。

4 指導・助言

(1) 指導で大切にしたいポイントについて

いじめや不正な行動等が起きても、勇気を出して止めることに消極的になってしまうことがある。そうした自分の弱さに向き合い、同調圧力に流されないで必要に応じ自分の意志を強くもったり、学校や関係機関に助けを求めたりすることに躊躇しないなど、それを克服して、正義と公正を実現するために力を合わせて努力することが大切である。

(中略)

「見て見ぬふりをする」や、「避けて通る」という消極的な立場ではなく、不正を憎み、不正な言動を断固として否定するほどの、たくましい態度が育つように指導することが大切である。

「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳」47 頁（下線引用者）

(2) 道徳科における問題解決的な学習について

○生徒にとって考えるべき課題があること。
○課題を解決していく過程が授業の中であること。



- ①道徳的な問題を
- ②自己の問題としてとらえ
- ③その問題の解決を目指し
- ④道徳科の目標の実現に資する学習

(3) 問題解決的な学習の中で大切にしたいポイントについて

- ・子供たちの思いや気持ちを十分に引き出して話合いにつなげる。

→この教材を通して、日頃生徒たちが考えていることを表出させ、自由に話す中で、自分自身の納得解を考えさせる。

- ・小グループでの話合いを活用することで、全体の前では言いづらい自分の意見を伝えやすくすることへとつながる。

→自己内対話から様々な話合いを経て自己へと往還する対話の構築。

〈個人→小グループ→全体→個人〉

- ・予想される生徒の反応を踏まえて、ねらいにせまるものになっているかという点を考える。

→そこまで到達していなかったら、「どんな補助発問をするか」、「ここからどのようにして考えを引き出してあげるか」という視点で考える。

(4) 「正義の声」における道徳的価値に根差した問題とその解決

「道徳科価値に根差した問題」

「道徳的価値について理解はしているが、それを実現しようとする自分とそうでない自分との葛藤から生じる問題」



「道徳的価値に関わる問題の解決」

- ・「こうすればよいと分かっている、なかなかできない」というときこそ、周囲に流されない強い心が必要なのだ。

道徳科学習指導案

中学校部会

- 1 主題名 自分の弱さと向き合う [内容項目 C 公正、公平、社会正義]
- 2 ねらい 正輝が小さな声で話したことについて考える活動を通して、自分の弱さと向き合い、周囲に流されない強い心をもとうとする道徳的実践意欲を育てる。

教材名 「正義の声」

(出典：さいたま市読み物資料「はばたき」さいたま市教育委員会)

3 主題設定の理由 (略)

- (1) ねらいやこれまでの指導内容について
- (2) これまでの学習状況及び生徒の実態について
- (3) 教材の特質や活用方法について

4 学習指導過程例

	学習活動〈主な発問〉	予想される生徒の反応	指導上の留意点☆評価の視点
導入	1 自分の生活を想起する。 ・正しいと分かっている、なかなか実現が難しいと感じたことはあるか。	・ある/ない/わからない ・なぜ正しいのに、実現できないことがあるのだろうか。	・本時で学習する道徳的価値への興味関心をもたせる。 ・道徳的価値について自己を振り返り、問題意識をもたせる。
	正義を実現するためには、どのような心が大切なのか。		
展開	2 条件・状況を説明する。 3 範読を聞き、話し合う。 [展開前段] ①先生の質問にだれも答えなかったのはなぜだろうか。 ②正輝が話したことは、どのようなことだろうか。 【中心発問】 ※周りの生徒は、どのようなことを言ったのだろうか。 [展開後段] ③あなたがこのクラスの一員であれば、どのようなことを言うのだろうか。 4 本時の学びから振り返りを行う。	<条件・状況> ・勇気がなかったから。 ・正しいと分かっている、実行できない弱さがあるから。 ・関係がないわけではない。 ・優太郎の言ったことは間違っている。 ・誰かを傷つけることは、許されることではない。 ・今まで良男たちの様子を見ていても言えなかったけれど、それは間違いであった。 ・これまでの自分は、本当に正義を実現することができていたのだろうか。	・教材の見通しがもてるように簡潔に提示する。 ・道徳的価値の実現する難しさについて共感させる。 ☆正輝が話したこと、周りの生徒の発言について多面的・多角的に考えている。 ・正輝の発言が正義の声の溢れるきっかけとなったことを考えさせる。 ・クラスメイトの視点から自己を見つめ、正義について考えさせる。 ☆これまでの自分を振り返り正義を実現するために必要な心について考えている。
終末	5 自己を見つめ、振り返る。		・人間としてよりよい生き方を考えさせる。

5 他の教育活動との関連〈事前指導・事後指導〉(略)

6 評価の観点(略)

(3) 令和7年度埼玉県道德教育研究会夏季研修大会 指導講評

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事

土 井 鉄 平 先生

本研修会も36回目ということで、清水会長をはじめとする埼玉県道德教育研究会の関係者の皆様には、長年にわたり、こうした研修の機会を設けてくださっていることに深く感謝申し上げます。また、会場の至るところでスタッフの方々が献身的に支えてくださっているおかげでこうした素晴らしい研修会が行えていると思います。ありがとうございます。

そして、何よりも、道德科を要とする道德教育への理解を一層深め、ご自身の指導力の向上を図ろうと、本研修会にご参加された先生方に心から敬意を表します。本県の道德教育が充実している背景には、先生方のこうした御努力があることを再認識した次第でございます。

協議をされている様子を拝見し、道德科の授業づくりについて、多くの先生方が授業の質を高めようとしていることを改めて実感しました。参会の先生方は、分科会で取り上げられた教材をどう活用し、どのように「考え、議論する道德」づくりを行うか、今後の実践に生かせる財産となったことと思います。ぜひ、自分のものだけにせず所属校の先生方等にも伝えてください。

さて、授業を行うにあたっては、道德科の目標や、道德科がもつ特質の理解が重要です。指導方法の工夫や、子供たちに「考えさせる」ためのICTの活用はあくまで、基礎となる理解の上に成り立つものです。まずは、道德科の目標や特質を正しく理解し、ICTの活用についても「子供たちが考えること」「より深く考えること」「さらに考え続けること」を目的とし、そのために本当に必要な場面で、適切に活用していくことが求められています。子供たちにもっと深く、そして多面的・多角的に考えさせるには、どのような問いを立て、どのような手法を用いるべきか、これはまさに、教師自身の道德的価値観に対する深い見識が問われるところです。そして授業は何より「明るく・楽しく」行うこと。教師が楽しそうに授業を行えば、子供たちも自然と楽しく感じるものです。教師が本気で考えていれば、子供たちも本気で考えようとします。そうした学びの環境を整え、共に質の高い道德の授業を目指してほしいです。そのためにも、まずは道德科の基礎・基本をしっかりと押さえ、学習指導要領に示されている道德科の目標と特質への理解を深めて、常に「子供の視点」に立って指導してもらいたいです。

「彩の国の道德」は、教材をダウンロードしての活用が可能となっています。現代の課題となっている内容が多く含まれていますので、年間指導計画に位置付け、授業で活用してほしいです。また、道德科の授業の充実とあわせて、子供たちの豊かな心を育むためには、家庭の協力は不可欠です。これまでも家庭・地域との連携を推進してもらっていますが、引き続き家庭用「彩の国の道德」等を活用し、学校と家庭が同じ視点に立って指導できる環境の整備を進めてください。

「規律ある態度」は、基本的な生活習慣や学習習慣の中からこれだけは必ず身に付けさせたい内容12項目です。近年の最重要課題は「話を聞き、発表する」ですので、子供たちに身に付けさせるよう取組をお願いします。

先生方お一人お一人の実践の積み重ねが、埼玉県の子供たちの心を着実に育てて参ります。引き続き、道德教育の積極的な推進・充実をお願いさせていただくとともに、本日御参会の先生方の御健勝・御活躍を祈念申し上げ、指導講評といたします。本日はありがとうございました。

（３）令和７年度埼玉県道德教育研究会夏季研修大会 指導講評

さいたま市教育委員会教育課程指導課主席指導主事

宍戸 貴久 先生

皆さま、こんにちは。さいたま市教育委員会教育課程指導課の宍戸と申します。本日は業務の関係で午後からの参加となってしまいましたが、御参加の先生方におかれましては、１日の研修ということで多くの成果があったのではないかと思います。私からは、指導講評というより、先生方の研修の様子を見させていただいての感想と、さいたま市の道德教育に関する取組についてお話をさせていただきます。

<研修の様子を見ての感想>

午後からの参加ということで時間も限られていたため、一つのグループに絞って見させていただきました。さいたま市の諏訪先生が司会をされていたこともあり、小学校・中学年部会を見させていただきました。『彩の国の道德』の「ハートがたのガム」という教材について展開を考える活動でしたが、印象に残った点が２点あります。１点目は、先生方が自分のクラスの子供たちを思い浮かべながら展開を考えていた点です。「こういう聞き方をしたら、こういう反応が返ってきそうだな。」「期待する反応を引き出すには、どんな聞き方をしたらよいかな。」という会話が聞こえてきました。同じ教材を用いても、子供の実態が違えば展開も違ってきます。子供の実態に合ったねらいや展開であってこそ「考え、議論する」道德の実現が図られます。２点目は、ねらいとする内容項目を意識されていた点です。内容項目によっては年間に１時間しか扱わないものもあるため、ねらいとする内容項目について考える授業になっているか確認しながら展開を考えていくことが大切になります。「この展開だと別の内容項目について考えることにならないかな。」といった会話が聞こえてきたことから、ねらいとする内容項目を意識していることが伝わってきました。

指導者（芳賀先生）の先生の指導の中にも印象に残る話がありました。１時間の授業の中で変容を望むから、どうしても教師の押し付けになってしまうという話です。さいたま市の教育課程説明会・研究協議会で指導をしてくださった校長先生も同じ話をされていました。「そういう考えもあるのか」という多様な感じ方・考え方に触れることにより、新たな感じ方・考え方を獲得することが大切なのではないのでしょうか。

<さいたま市の道德教育に関する取組>

続いて、さいたま市の道德教育に関する取組についてお話をさせていただきます。夏季休業に入ってすぐの７月２２日に、「教育課程説明会及び研究協議会」を実施しました。さいたま市立小学校・中学校・中等教育学校から、道德教育推進教師や道德教育主任等１６３名が参加し、オンラインにて研修を行いました。さいたま市教育研究会道德専門部副部長・さいたま市立上里小学校 藤田 敦 校長先生を指導者として呼びし、６月に行われた文部科学省主催「各教科等担当指導主事連絡協議会」の内容の伝達と、参加した先生方による研究協議を行いました。研究協議は「考え、議論する道德への質的充実に向けた取組」を協議題にし、これまでの実践や日々の困り事などについて活発な情報交換が行われました。指導者の藤田校長先生からは、「明確な指導の意図をもつことの重要性」をテーマに、授業づくりについて分かりやすく解説をしていただきました。参加した先生方は新たな学びを得るとともに、２学期から試してみたい具体的な手立てを見付けられたようでした。

参加した先生方の感想を紹介したいと思います。

○ICTの活用は、導入場面では使ったことがなかったが、その他の場面での使い方について知ることができた。

○同じ内容項目を取り扱う違う教材について、それぞれの教材の特質を理解し、何について考えさせたいのかを明確にして授業を行いたい。

○「考え、議論する道徳」について、派閥に分かれて自分の意見を戦わせるようなイメージをもっていたが、そうではなく、自分と違う考えに触れることで考えを深めたり、新しい考えに気付いたりすることが大切であることが分かった。

○「考え、議論する道徳」というと、活発な議論が必要かと思っていたが、自分との関わりで考え、多様な考えに触れることで深められればよいことが分かった。

○「考え、議論する道徳」というと、たくさん話し合いを設定することが目的になってしまいがちだが、いかに子どもが多様な感じ方・考え方に触れ、自分の考えを深められるかを追求したい。

特に、「考え、議論する道徳」について、認識が新たになったり、正しく理解できたりしたことがうかがえる感想が多かったのは、大きな成果と考えています。さいたま市の道徳科の授業がまた一歩充実するのではないかという期待が膨らみます。また、さいたま市の道徳教育に関する取組を改善するためのヒントになるような感想もありましたので、紹介します。

○教科担任制の導入やいわゆる余剰時間の削減などにより、特に高学年では、行事が多い月には道徳科の授業ができないこともあることを正直に語ってくれた先生がいた。道徳科で扱う内容は他の教科等で補充することは難しいから35時間の授業を大事に行いたいねという話になった。

○協議を通して、学校によって取組が異なっていたり、意識の差があったりするように感じた。

他校と情報共有する機会を定期的に設けることで意識の差がなくなるのではないかと考える。

どちらの先生の感想からも、道徳教育を大事に考えてくださっていることが伝わってきました。

こういった先生方の気持ちに応えるためにも、現在ある道徳教育に関する取組について改めて考えていきたいと思います。

ここからは、2学期以降の取組について紹介します。

2学期以降、会場校研修が予定されています。これは、実際の授業を見て研究協議を行う、いわゆる授業研究会ですが、やはり、「実際の授業を見るのが一番勉強になる」ということで、毎年実施しているものです。今年度は、小学校3校、中学校1校を会場に計6本の授業を公開していただけることになりました。1学期にいろいろな学校を訪問して授業を見させていただいて、「素敵な授業だなあ。多くの先生に見ていただきたいなあ。」と感じた授業がたくさんありました。その授業をされた先生と所属校の校長先生にお願いをして授業を公開していただけることになりました。授業者となった先生と検討を重ね、「考え、議論する道徳ってこういう授業だよ」「道徳科の授業におけるICTの効果的な活用ってこういうことだよ」ということが、多くの先生方に伝わるような会場校研修にしたいと思っています。また、さいたま市の先生方が抱えている道徳科の授業づくりに関する課題の解決につながるような授業にしていきたいと考えています。

私からは、主にさいたま市に関することをお話しさせていただきましたが、埼玉県においても、それぞれの地区で様々な取組があるかと思います。先生方がそれぞれの場所で学んだことを、こういった機会に持ち寄って交流することで、個々の学びが広まったり深まったりするのだと思います。そういった機会であるこの夏季研修会を運営していただいた清水良江会長をはじめとする埼玉県道徳教育研究会の皆様に感謝を申し上げ、私からのお話とさせていただきます。本日はありがとうございました。

3 「考え、議論する」道徳科の実践 ～多様な指導方法の展開事例～



(埼玉県道徳教育研究大会・ふじみ野大会)

夏季研修大会分科会のまとめを受けての授業実践提案

- | | |
|---------------------|------------|
| ○ 小・低学年（朝霞市立朝霞第三小学校 | 松岡 竜平 先生) |
| ○ 小・中学年（和光市立第三小学校 | 脇 亮太 先生) |
| ○ 小・高学年（新座市立東北小学校 | 武口 つかさ 先生) |
| ○ 中学校部会（川口市立戸塚西中学校 | 堀越 龍太 先生) |

道徳科授業実践提案

指導者 朝霞市立朝霞第三小学校 教諭 松岡 竜平

1 主題名 じかんを たいせつに 内容項目 [A 節度、節制]

2 ねらい

1日目と2日目の日記を比較して、2日目に自分でタブレットを片づけることができた、そうたの気持ちについて話し合うことを通して、時刻を守り、時間を大切にすることのよさに気づき、そのような生活への憧れをもち、時間を大切にしようとする心情を育てる。

教材名「大すきな タブレットタイム」

(出典：彩の国の道徳「未来に生きる」埼玉県教育委員会)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は低学年の内容項目 A 節度、節制「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。」をねらいとしている。基本的な生活習慣は、人間として最も基本的かつ日常的な行動の在り方であり、充実した生活を送る上で、欠くことのできないものである。低学年の段階では、「時刻を守ること」「時間を大切にすること」などを繰り返し指導し、規則正しい生活の大切さに気付かせることが重要である。児童の生活の中では、「遊びたい」「やりたい」という気持ちと「やるべきこと」「守るべき約束」との間で迷う場面が多く見られる。だからこそ、低学年のうちに「時間を意識して行動することのよさ」や「気持ちよく過ごせる生活への憧れ」に触れ、自らも「時間を大切にしよう」とする心情を育てていきたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、4月に内容項目 A 節度、節制の教材を活用して、決まった時間に寝起きしているか自分の生活を振り返り、規則正しい生活の大切さについて考える学習を行った。その中で生活習慣への意識は育ちつつあるが、学校生活の中では、楽しいことを優先して行動の切り替えが難しい姿も見られる。1年生という発達の段階では、目の前のことに気持ちが向きやすく、先を見通して行動する力は育成途上にある。だからこそ、児童が自分自身の姿と重ねやすい本教材を通して「時間を意識して行動することが気持ちのよい生活につながる」という道徳的価値を実感し、そのような生活への憧れをもつことができる授業展開が重要である。本授業では、「時間を意識して行動することのよさ」や「気持ちよく過ごせる生活への憧れ」に触れ、自らも「時間を大切にしよう」とする心情を育てることを目指す。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公そうたが書いた2日間の日記という形式の実話的な物語教材である。1日目の日記で、そうたは、タブレット学習に夢中になるあまり、休み時間に友達と約束していたブランコ遊びに遅れてしまい、遊ぶことができなかった。2日目の日記では、その経験を受けて、そうたが時間を


意識しながらタブレットを途中でやめ、片づけて休み時間を迎えることができた。



教材の特質として、児童が日常生活で経験する迷いや葛藤をリアルな言葉と出来事で表現している点が挙げられる。特に、「あと1問だけ」と問題を解き続ける姿や、「今日は時間を見ながら進めました。」という2日間の気づきは、道徳的価値を自ら見出そうとする変化の過程を象徴する場面である。

導入では、児童の身近な体験を想起させることで、そうたの姿を自分事としてとらえられるようにする。展開では、1日目と2日目の日記を比較しながら、そうたの行動の変化とその背景にある気持ちに注目させることで、「時間を大切にすることのよさ」への気づきをうながす。また、「時間を守るとどんなよいことがあるか」を問うことで、自分自身の生活を振り返り、これからの生活での実践意欲につなげていく。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 学習指導過程

	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点☆評価の視点
導入 5分	1 道徳的価値に関する自分自身の経験を想起する。 ・「あとちょっとだけ」となりやすい時って何をしている時ですか。	・ゲーム ・遊び ・おしゃべり ・タブレット ・テレビ ・漫画	・児童にとって身近なことを尋ねることで、児童の体験と教材を自然につなげる。教師が自身の体験を話したり、教師や他の児童が共感を示したりすることで、素直に自分の考えを表現できる雰囲気を作り、安心して授業に参加できるようにする。
	じかんをまもれるとどんなよいことがあるのかな。		
展開 38分	2 教材「大すきな タブレットタイム」の条件・状況を知る。		
	【登場人物】 そうたさん（主人公） 【条件・状況】 そうたは、算数の後のタブレット学習に夢中になり、友達との約束に間に合わなくなってしまう。		
	・このお話ではそうたさんが2回日記を書いています。 3 教師の読み聞かせを聞く。 ・1日目のそうたと、2日目のそうた、どちらが好きか考えながら聞いてください。		・日記の中身には触れず、教材の登場人物の設定をおさえる。 ・聞く時の観点を伝えることで児童が自分事として教材を聞くことができるようにする。

	<p>4 そうたの気持ちを中心に話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1日目と2日目のそうたどちらが好きですか。また、1日目と2日目の違いは何かな。 <p>(1)「あと1問だけ」と問題を解いたとき、そうたはどんな気持ちだったかな。</p> <p>(2)もう少しで葉っぱが開きそうなのに、なぜタブレットを片づけられたのだろう。 (中心発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まだやりたいって思いながらも、自分でやめるって決めたそうたってすごいね。 	<p><1日目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タブレットを途中でやめられなかった。 <p><2日目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間を見て行動した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ もう少しやりたい。 ・ あとちょっとでクリアできる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 明日頑張ろう。 ・ 友達との約束は大事。 ・ ブランコに乗りたい。 ・ 時間を守ろう。 ・ このままではダメだと思った。 ・ やればできると思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日目と2日目の違いに目を向けるようにすることで、比較を促し、そうたの心の内的変化を考えられるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ そうたがタブレットに夢中になる気持ちに共感させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の意志でタブレットをやめた主人公のよさをおさえる。必要に応じて問い返しや補助発問をする。 <p>☆主人公の揺れ動く気持ちに目を向け、物事を多面的・多角的に考えている。(発言)</p>
	<p>(3)タブレットを途中でやめたからすっきりじゃなくて、もやもやじゃないのかな。どうしてすっきりしたのかな。</p> <p>(4)時間を守るとどんなよいことがありますか。</p> <p>5 自己を見つめ、振り返る。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・ 頑張ったから。 ・ 前より自分が成長できたから。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 休み時間、たくさん遊べる。 ・ みんなに迷惑をかけない。 ・ すっきりする。 ・ 「やった！」ってなる。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ 節制をできたときの主人公の気持ちを考えることで、時間を大切にするよさに気づき、自分もそうありたいと思えるようにする。 <p>☆これまでの自分を振り返り、時間を守ることのよさを知り、気持ちのよい生活について自分との関わりで考えている。(発言・記述)</p>
終 末 2 分	<p>6 教師の説話を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ ついついやめられないことにも説話で触れることで、児童が今の自分を否定せず、未来に向けて前向きな気持ちになれるようにして終わる。

5 他の教育活動との関連

- ・内容項目 A 節度、節制の教材を活用し、決まった時間に寝起きしているか自己の生活を振り返り、規則正しい生活の大切さについて考える。
- ・日常生活の中で本時のねらいに即した行動を取り上げて、そのよさを全体で話し合う。また、その行動ができたとき、どんな気持ちになったか気持ちの共有を行う。

6 評価の視点



【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・主人公の揺れ動く気持ちに目を向けて物事を様々な視点から考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・これまでの自分を振り返り、時間を守ることのよさを知り、気持ちのよい生活について自分との関わりで考えている。

7 板書計画

だいすきな タブレットタイム				
じかんをまもるとどんなよいことがある？				
あとちょっとだけ	<1にちめ>	<2にちめ>	<もうしすこしで>	<じかんもまもると・・・>
・ゲーム ・あそび ・おしゃべり ・タブレット ・テレビ ・まんが	 ・とちゅうでやめられなかった。 ・やくそくをまもれなかった。	 ・じかんをみてどうした。 ・ブランコにのれた。	・ブランコにのりたい。 ・このままではダメ。 ・やればできるとおもった。 <どうしてすっきり？> ・がんばったから。 ・まえよりせいちょうしたから。	・やすみじかんたくさんあそべる。 ・めいわくをかけない。 ・すっきりする ・「やった！」となる。

8 考察

(1) 導入

「あとちょっとだけ」と思うときのエピソードを実際に児童から聞くことで、多くの児童が本時のテーマに関心をもち、自然と授業への自我関与が高まった。

(2) 展開

発問(1)では、「あと1問だけ」と思っていたそうたの気持ちについて話し合った。児童たちからは、「夢中だったから」「楽しいとやめられない」など、夢中になる気持ちへの共感が多く出され、自然と中心発問「もう少しで葉っぱが開きそうなのに、なぜタブレットを片づけられたのか」へと思考が移っていった。

中心発問では、まず個人で考えた後、ペアで対話を行うことで自分の考えを深め、さらに全体で話し合う中で多様な考えを引き出すことができた。また、教師が児童の発言後に「みんなはどう思う」と問い返すことで、一つの意見から対話を広げていく展開が生まれた。

(3) 終末

振り返りには、「時間を守ると友達との約束を守ることができる。」「時間を守ると気持ちがよくなる。」「自分も時間を守って行動したい。」といった意見があり、自分との関わりで考えを深めている様子が見られた。

道徳科授業実践提案

指導者 和光市立第三小学校 教諭 脇 亮太

- 1 **主題名** どんなときでも正しく 内容項目【A 善悪の判断、自律、自由と責任】
- 2 **ねらい** 手のひらのガムをじっと見つめた私の気持ちを考えることを通して、自分の弱さに気付くとともに、どんな状況であっても善い、悪いを考えることのできる判断力を育てる。
- 教材名** ハートがたのガム（出典：「彩の国の道徳 みんななかよし」 埼玉県教育委員会）

3 主題設定の理由

（１）ねらいや指導内容について

本主題は内容項目の【A 善悪の判断、自律、自由と責任】の〔第3学年及び第4学年〕「正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。」を受けて設定している。

人として行ってよいこと、社会通念として行ってはならないことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、児童が幼い時期から徹底して身に付けていくべきものである。しかし、道徳的な意味での「正しいこと」の判断は時・場・相手によって異なる。そのため、もてる力の全てを発揮して正しいか、正しくないかの判断をすることが求められる。その積み重ねが自信に繋がる。

しかし、正しいことと知りつつもそのことをなかなか実行できなかつたり、悪いことと知りながらも周囲に流されたり、自分の弱さに負けたりしてしまうこともある。指導に当たってはそのような弱さがあることに触れながら、どうしたらその弱さを克服できるのか、弱さを克服することでどのようなよさを得られるのかを考えさせたい。そしてどんな状況であっても「善い」、「悪い」を考えることのできる判断力を育てていきたい。

（２）これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は道徳科の授業に対して大変意欲的である。児童は今年度に入って20時間の道徳科の学習を行ってきた。テーマや発問に対してよく考え、ペアで意見を交流したり全体で話し合ったりすることを通して、道徳的価値についての考えを深めている。授業の前に個別で教材を読んでもくるように指導し、授業でどのような問いで話し合いたいと考えさせている。小グループで問いを出し合い、特に話したい問いを1つずつ出し、それを基に授業を進めている。そうすることで児童が主体的に話し合いに臨む姿が見られている。

「善悪の判断、自律、自由と責任」については今年度初めて扱う内容項目である。「正直、誠実」について話し合った「よごれた絵」（出典：「道徳3 きみがいちばんひかるとき」光村図書）では、掲示してあった友達の絵を誤って汚してしまった人物の気持ちを考えた。絵の持ち主に対して自分がしてしまったことを正直に伝えるか葛藤する気持ちに共感し、「相手のために」という相手目線の意見や、「謝らないと後悔する」という自分目線の意見が出て、正直でいることのよさを多面的に考えることができた。

（３）教材の特質や活用方法について

本教材の内容は以下のとおりである。主人公「かずみ」が、親友「あき」から、学校

の休み時間に「二人だけの秘密だよ。」とハートの形をしたガムを手渡される。かずみは迷いながらも、「一つだけなら。」と受け取ってしまうが、その後、見つかったらどうしようという思いから誰とも目を合わすこともできず、心の中は後悔でいっぱいになる。家に帰り、お母さんに今日のできごとを話すかずみが、「どうすればよかったのかな。」というお母さんの言葉に自分の行動を振り返る。


本教材を通して、かずみがガムをもらってしまったことを「よくない」と捉える児童が多いと予想される。その葛藤する気持ちに共感したり、それでも受け取ってしまった理由を考えたりすることを通して、人にはそういう弱さがあるという人間理解を深めていきたい。また、最後に自分の行動を振り返る場面を通して、ガムを受け取ったことを後悔する思いに共感するとともに、「もし断っていたらどうなっていただろう。」と問い返すことで、正しいことをするよさを感じられるようにし、ねらいに迫っていきたい。

そこで話し合いにおいて、主に次のように教材を活用する。

- ① 「でも・・・」と言いながらガムをもらうか、断るか葛藤するかずみの気持ちを考えさせる。役割演技を行い、両方の立場に立って考えられるようにする。
- ② 葛藤したうえでガムを受け取ってしまった理由を考えさせる。
- ③ 手のひらをじっと見つめたかずみの気持ちを考えるとともに、断っていたらどんないいことがあったのか考えさせる。

以上のことから、本主題を設定した。

4 学習指導過程

	学習活動 〈主な発問〉	予想される児童の反応	○指導上の留意点 ☆評価の視点	時間
導入	1 児童にとって身近な話題から課題を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分も走る。 ・ 友だちに「待って」と言う。 ・ 歩いて校庭に行く。 	○児童が課題意識をもてるようにするとともに、本時のテーマにつなげる。	3
休み時間に友だちが「早く校庭に行こう」と言って走って行ってしまいました。あなたはどうする？		<p>テーマ：つられないようにするために大切なことは？</p> <p>※本時は「悪いことにつられる気持ちに負けないようにするためには？」というテーマとなった。</p>		
展開	2 読み聞かせをし、問いを立てる。	<p>【登場人物】 わたし(かずみ) あき(親友) お母さん</p> <p>【条件・状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 休み時間、親友のあきからハート型のガムを手渡される。 ○ 迷いながらも一つ受け取ってしまうが、その後の心の中は後悔でいっぱいになる。 ○ 家に帰り、もらったガムがお母さんに見つかる。「どうすればよかったのかな。」というお母さんの言葉に自分の行動を振り返る。 		4
				

	3 教材をもとに話し合う。 〈1〉「でも…」はどんな気持ちで言ったのだろう。 ・どんなことで悩んでいたのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ばれたら怒られてしまう。 ・食べたい気持ちもあるから悩む。 <p>〈もらう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ばれないから大丈夫だろう。 ・ガムは欲しい。 ・断ったら嫌われるかも。 <p>〈断る〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガムを持ってきてはいけない。 ・ばれたら叱られる。 ・こういうことが続くと自分がだめになる。 ・ガムを欲しい気持ちに負けてしまったから。 ・ばれないから大丈夫だと思ってしまった。 ・友だちとの関係の方が大事だと思った。 	<p>○「・・・」に注目し、葛藤する思いを想像させる。</p> <p>○二人組で役割演技をし、もらうか断るか葛藤するそれぞれの立場に立って考えられるようにする。</p>	8
	〈2〉それでもガムを受け取ったのはどうしてだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり断ればよかった。 ・悪いことをしてしまった。 ・こんな思いをしないで済んだ。 ・自分の成長につながった。 ・悪いことをする友だちを止めることができた。 	<p>○いけないとはわかっていても、誘惑に負けてしまう人間の弱さがあることを抑える。</p> <p>☆自分の考えを明確にししながら、友だちと話し合っている。</p>	5
	〈3〉手のひらをじっと見つめたわたしはどんなことを考えていただろう。 ・もし断っていたらどうなっていただろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり断ればよかった。 ・悪いことをしてしまった。 ・こんな思いをしないで済んだ。 ・自分の成長につながった。 ・悪いことをする友だちを止めることができた。 	<p>○授業中、ずっとドキドキしていたことにも触れられるようにする。</p> <p>○もしもの世界を考えることで、正しい選択をすることのよさを感じられるようにする。</p>	8
終末	4 導入の話に触れ、テーマについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・後悔しないように決める。 ・相手の未来を考えて決める。 ・堂々とできることにする。 	○教材での話合いをもとに考えられるように、板書との繋がりを意識させる。	7
	5 本時の学習を振り返り、感想を書く。		<p>○3つの観点（①本時の学び②友達の見解から③これからの過ごし方で書くよう促す。</p> <p>☆悪い行動につられないためには、人間の弱さを理解しつつ、未来のことを考えて行動する</p>	10



			ことが大切であると捉え、そのよさを取り入れようとしている。	
--	--	--	-------------------------------	--

5 他の教育活動との関連〈事前指導・事後指導〉

事前指導 ・教材を事前に読み、授業でどのような問いで話し合いたいのか考えるように指導する。

事後指導 ・ノートの振り返りの中から、授業では出てこなかった視点について書かれているものを抜き出し、次の授業の時に紹介する。

・日常生活の中で、きまりを守ったり善悪の判断を正しくできたりした場面を取り上げ、称賛する。

6 評価の視点

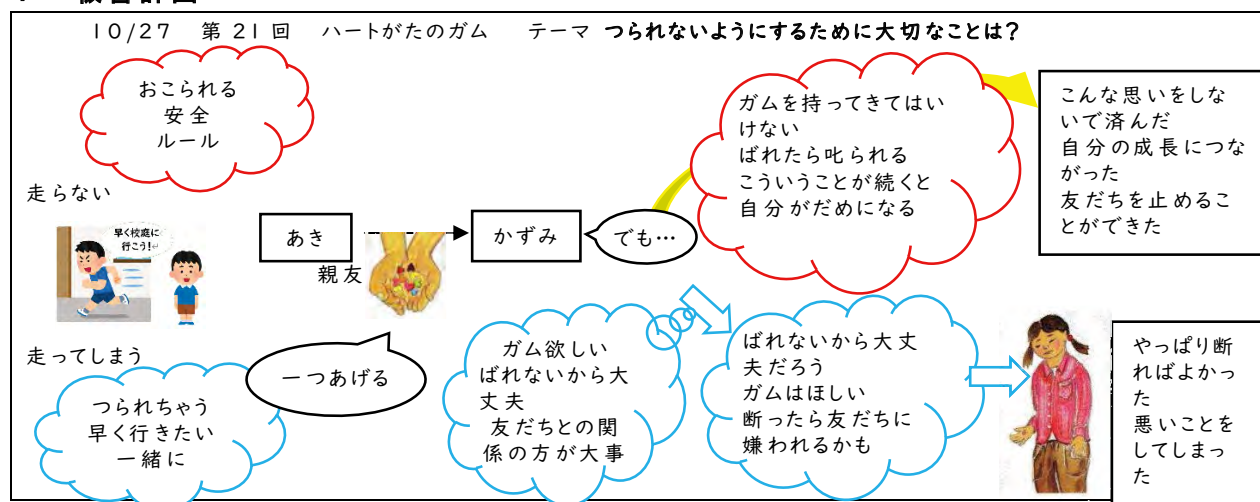
【物事を多面的・多角的に考えている様子】

資料をもとに、自己の普段の行いと関連付けたり自分の考えを明確にしたりしながら、友だちと話し合っている。

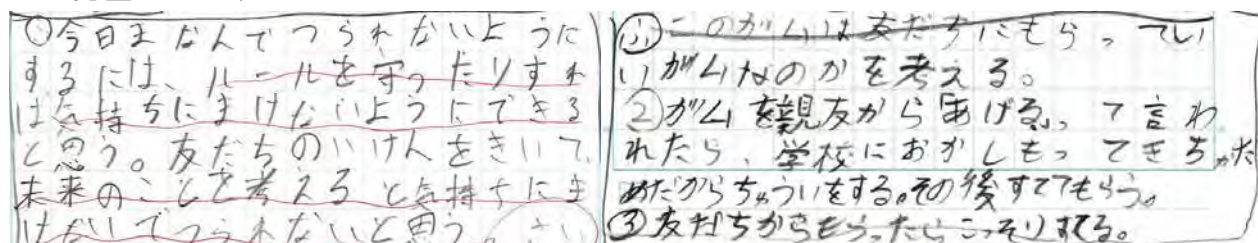
【道徳的価値についての理解を自分とのかかわりで深めている様子】

悪い行動につられないためには、人間の弱さを理解しつつ、未来のことを考えて行動することが大切であると捉え、その良さを取り入れようとしている。

7 板書計画



8 児童のワークシート



今日のじゃぎょうで私は、わるい
 ことにつられる気持ちを負けない
 ようにするには、落ちついたリ未
 来の時の気持ちを考えたりすると
 いうことを学びました。

⑤今日はガムや学校にも、アキ
 がいけないうちはもがれないよう
 にしようと思いを。なぜなら
 もが、たが後でこうか、いをするか
 もしれないからむ、なよてあが
 すが、てきていたがあつ、いをするようにま。

9 考察

(1) 導入

児童にとって身近であり、教材と類似した「ルール違反につられてしまいそうになる」場面を提示したことで、課題意識をもってテーマを設定することができた。児童からは「なぜあきは悪いことをしていたのに平気な顔をしていたのか」という問いが出され、あきの行動に注目する様子が見られた。このことから、児童にとってあきの行動は理解しがたいものであったことがうかがえる。しかし、他の問いに時間と意識を取られ、この問いを十分に扱うことができなかった。

(2) 展開

ガムをもらうことに悩む葛藤場面の心情を問う問いから授業を始めたが、児童はその心情についてはおおむね理解しているようであった。それにもかかわらず、役割演技までして時間をかけすぎてしまった。また、断る理由として「ばれるから」「怒られるから」など他律的な意見が多く、考えが深まらなかった。

テーマ「悪いことにつられる気持ちに負けないようにするには？」をより深めるためには、「ガムをもらわずに断っていたらどうなっていたか」を考えるとともに、どちらの選択をするかを自分に引き寄せて話し合うことで、児童一人一人が自分なりの納得解を得られたのではないかと考える。

そこで、別の学級では、以下のように問いを変更して授業を行った。

- 〈1〉 かずみがガムを受け取ったのはどうしてだろう。
- 〈2〉 手のひらをじっと見つめた「わたし」はどんなことを考えていただろう。
- 〈3〉 もし断っていたらどうなっていただろう。
- 〈4〉 テーマについて。

この学級の児童からも「あきはなぜハート形のガムを持ってきたのか」という、あきに注目する問いが出された。その点にも少し触れながら、〈1〉の問いで葛藤する思いに共感することができた。その結果、〈4〉のテーマ「ルールを守っていない友達がいたらどうする？」について考える時間を十分に確保でき、「自分に自信をつける」「ルールを守る自分を当たり前にする」「『悪いこと』という自覚をもつ」「話をそらす」など、多様で深まりのある意見が出された。本時のねらいに対しておれずに、児童の実態に合わせた問いを設定することの大切さを改めて痛感した。

(3) 終末

導入の問いを振り返り、関連付けて考えることで、児童が当初もっていた課題意識が1時間を通して貫かれるようにした。ふりかえりの時間を十分に確保することで、児童一人一人が自分の行動や考え方と向き合うことができた。

(4) 板書

導入の発問から本教材の発問に至るまで、黒板を上下に分け、正しい行動を上、悪い行動を下に整理して書くようにした。色も赤と青に統一し、構造的にわかりやすくなるよう心がけた。2つの板書を比較すると、2回目の授業では後半の板書がより充実して

おり、学習の深まりが一層表れていたと考えられる。

板書①

1/5 第21回 ハトがたのカム テーブルわらわいことにつられる気もち真けないようにするには?

安全時間がある
走らない
一緒に走ろう
自分ちいい早く下いかたい

あき 親友
かすみ
でも

こわい
小さくてもルールは
はれたら
友だちから言われるかも
モヤモヤ

親友たち
こわいから
はれない
おしに負けた

もう
おいしそう
はねなきOK
かくせる
あきのせい

じゃあやしないですんだ
モヤモヤ
気もちが落ちついてた
自分も相手もせな思いをしない

わらわいことばか
ことわればよかた
おしに負けた

ルールする
強い気もち
未来を考える
落ちない

板書②

1/5 第21回 ハトがたのカム テーブルルールを守っていない友達がいいたらどうする?

ルール
あかぬいぬいぬい
先生に言われろ

あき 親友
かすみ
でも

たぬなこと
つられていい?
注意した方が
しかられる

親友たち
おしに負けた
はねなきOK

もう
友だちたちおしに負けた
おしに負けない
きれいにいにおい
こわいからあき 仲間

正しい考えで
いつも通りの自分
あきも正しく
いやく

自分ルールをする
自分ちがた前
未来を考える
悪いことの自覚
話をきく

ことわれば
後悔
どうして
どうしてよかた?

道徳科授業実践提案

指導者 新座市立東北小学校 教諭 武口 つかさ

1 主題名 信念をもつてくじけずに【A 希望と勇気、努力と強い意志】

- 2 **ねらい** アニー・サリバンが困難があってもくじけずに努力できたのはなぜかを話し合うことを通して、目標に向かって努力するためには希望と信念をもつことが大切だということに気付き、くじけずにやり抜こうとする実践意欲を育てる。

教材名 ヘレンと共に―アニー・サリバン―（出展：「私たちの道徳」文部科学省）

3 主題設定の理由

（１）ねらいや主題設定の理由

本主題は、小学校学習指導要領第5学年及び第6学年の「より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。」をねらいとしている。

第5学年及び第6学年の段階の児童は、それぞれに高い理想を追い求める時期と言われる。一方で、自分自身に自信がもてなかったり、思うように結果が出なかったりして、夢と現実の違いを意識することもある。そこで指導においては、苦しくても努力して物事をやり抜き、失敗を重ねながら夢を実現した人に触れ、希望をもつことの大切さや希望をもつが故に直面する困難を乗り越える強さについて考えることを通して、自分の中にもそのような強さがあることや、これから育てていけることに気付かせ、よりよい自分を目指してくじけずにやり抜こうとする実践意欲を育てたい。

（２）これまでの学習状況及び児童の実態について

本授業でよりねらいにせまる展開にできるよう、本学級の児童に対して、これまでの経験やどのような考えをもっているのかを把握するために、本主題に関する意識調査を行った。（問1 問2 略）

問3 がんばりつづけるのはとくいですか。

とくい 36. 4%

どちらかといえばとくい 42. 4%

どちらかといえば、にがて 21. 2%

にがて 0%

問5 なぜがんばりつづけるのが苦手ですか。（自由記述）

＜回答まとめ＞

・あきるから。

・ちがうことに目がいって、忘れてしまうから。

問4 なぜがんばりつづけられるのですか。（自由記述）

＜回答まとめ＞

・達成感を感じられるから。

・結果がでるとうれしいから。

・夢や目標があるから。

・楽しいから。

・できるようになるから。

・役に立つから。

・あきらめたくないから。

・テストで百点取れるから。

・ご褒美があるから。

意識調査の結果を見ると、約8割の児童が「がんばり続けることが得意、どちらかといえば得意」と答えている。理由としては、「達成した時の喜び」や「夢や目標のために」、「楽しいから」が多かった。頑張り続ける過程には、達成が遠い時や楽しさが感じられない時も当然ある。そういった中でも頑張り続ける心や、自分の内側に信念をもつ大切さに気付かせたい。そして、頑張り続けることが

苦手と答えた児童が少しでも頑張り返けることのよりどころになるような学習にしたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合うことにする。

① アニー・サリバンが家庭教師を引き受けた場面。

明らかに困難が予想される中でも、アニーが自分の信念に力をもらいながら家庭教師を引き受けた理由を話し合うことを通して困難に立ち向かう強さについて考える。

② アニー・サリバンがヘレン・ケラーを教えている場面。

根気強くヘレンを導き続けるアニーの心の内を話し合うことを通して、度重なる困難に負けそうになる人間の弱さや、その困難に立ち向かって物事をやり抜く強さについて考える。その強い信念には外発的動機よりも内発的動機の裏付けがあることに気付かせたい。

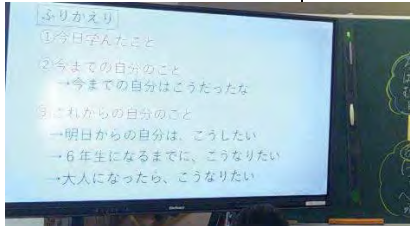
③ ヘレンが「WATER」を理解したことに気づき、アニーがヘレンを強く抱きしめた場面。

信念をもって努力したことが実を結んだときのアニーの心の内を話し合うことを通して、くじけずに努力するよさや、内発的動機によって喜びが得られていることに気付かせ、くじけずに努力するよさについて考える。

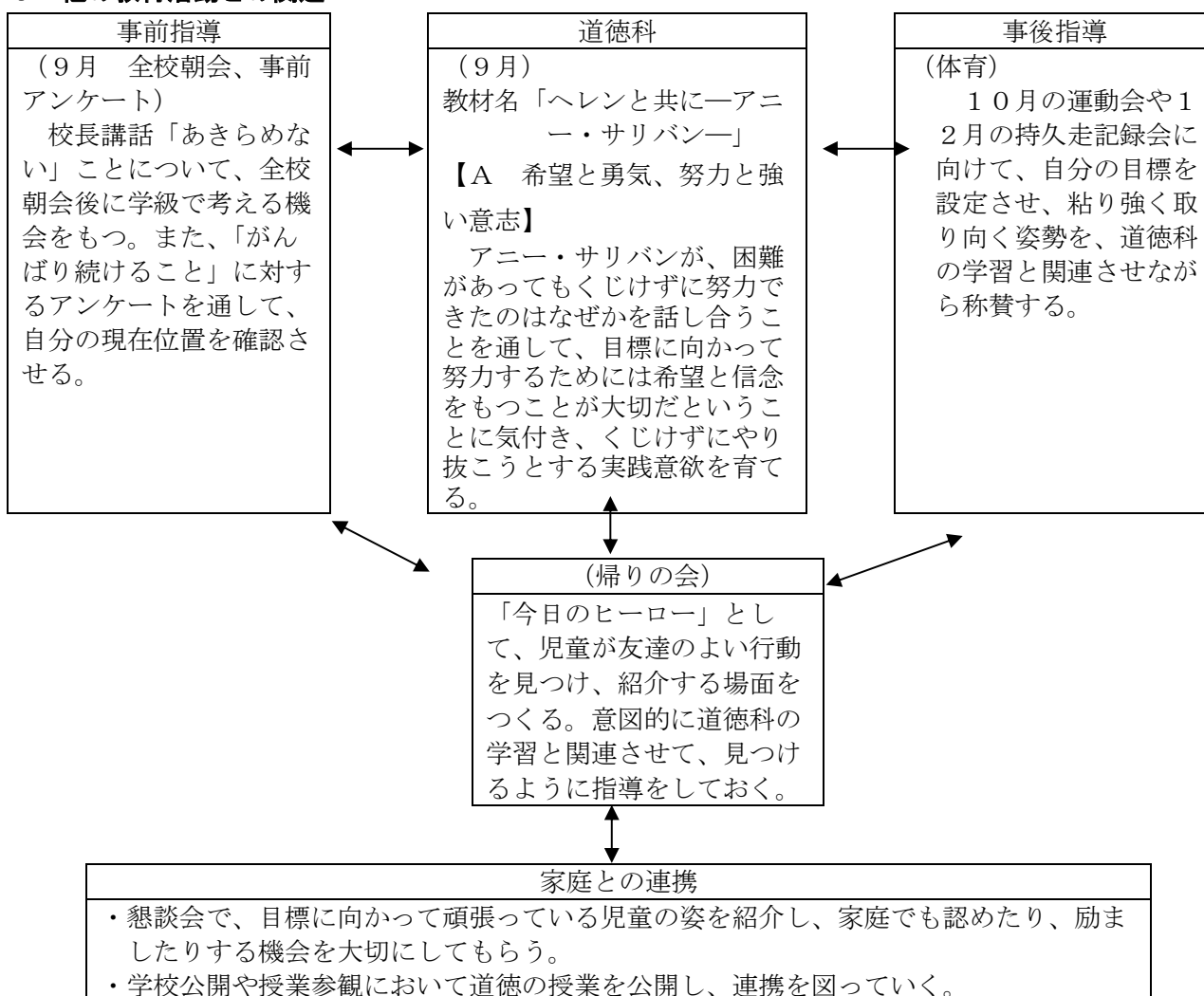
4 学習指導課程

段階	学習活動・主な発問	予想される反応	・指導上の留意点☆評価の視点	時間
導入	1 事前アンケートの結果を提示する。 ・今月の校長先生のお話は何か。 2 学習課題を提示する。 ・楽しくない時や達成感がない時ががんばれるかな？	・「あきらめない」です。 ・頑張り続けられる人がこんなにいるのだね。 ・頑張れるかなあ。	・ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。 ・今月の生活目標と関連させる。(学校教育全体で行う道徳教育との関連) ・本教材が偉人の話なので、児童と関係が薄いことが考えられる。アンケートを使って、児童にも身近な話題であることを強調する。	5
		がんばり続けるためには？		
	3 教材の登場人物、条件・状況を知る。 4 教材の範読を聞き、話し合う。	登場人物：アニー・サリバン ヘレン・ケラー 条件・状況：ヘレン・ケラーの家庭教師であるアニー・サリバンの話である。アニー・サリバンは生まれつき視力が弱く、一時は失明したが、三度の手術を経て目が見えるようになり、その喜びと感謝の気持ちから「将来目の不自由な人の役に立ちたい」と決意し、一生懸命努力を重ね、ヘレンの家庭教師を引き受けた。		7

展 開	<p>(1) サリバン先生は引き受ける前に、何を考えていたのだろう。なぜサリバン先生は、家庭教師を引き受けたのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで努力したことが通用しない不安。 ・勇気を出そう。 ・自分の信念が不安を乗り越える力になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サリバン先生がどうやって家庭教師（困難）を受け入れて、不安を乗り越えられたかに気付かせる。 ・何かをがんばりたいと思った、始まりの困難に焦点を当てて考えさせる。 	5
	<p>(2) がんばりつづけているサリバン先生は、どんなことを考えていたのだろう。なぜ頑張り続けることができたのだろう。</p>	<p><やめたい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は一生懸命頑張っているだけなのに、陰口を言われるのは嫌だ。 <p><続けたい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の決心を貫きたい。役立ちたい。 ・自分ならできるはずだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT「心の数直線」を使ってポジショニングして話し合わせる。 ・粘り強く取り組むサリバン先生の心の内を考えることで、度重なる困難に立ち向かう強さと、人間の弱さに気付かせていく。 <p>☆アニー・サリバンが困難があってもくじけずに努力できたのはなぜかを話し合うことを通して、夢や目標に向かって努力するために必要なことを多面的・多角的な視点で考えている。（発言）</p>	10
				
	<p>(3) サリバン先生がヘレンを強く抱きしめたとき、どんなことを考えていたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・頑張ってきて良かった。 ・ヘレンの役に立ててよかった。 ・ご褒美ではかえられない達成感がある。 ・自信がついた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・強い信念をもって努力してきたことが実を結んだ時の喜びとそれがまた頑張る力になるということに気付かせる。 ・褒賞などの外発的動機ではない内発的動機によって喜びが得られていることに気付かせる。 	5
	<p>(4) がんばり続けるためには、どんなことを大切にしたらいいのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みなさんの中にもありませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・強い気持ちをもって、困難を乗り越えること。 ・自分ならできると信じること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適な振り返りになるように、「明日からの自分」「次の学年までの自分」「大人になった自分」の選択肢を与える。 	5
	5 今までの自分を振		☆今までの自分を振り返り、目標に	5

	<p>り返り、よりよい生き方について考える。</p> 	<p>向かって努力するためには希望と信念をもつことが大切であり、くじけずにやり抜こうとするよさについて、自分との関わりで深めている。(ノート記述・発言)</p>	
終末	6 教師の説話	<p>・児童がこれから困難にぶつかっても、くじけずにやり抜こうという気持ちがもてるように、余韻を残す。</p>	3

5 他の教育活動との関連



6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・アニー・サリバンが困難があってもくじけずに努力できたのはなぜかを話し合うことを通して、夢や目標に向かって努力するために必要なことを多面的・多角的な視点から考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・今までの自分を振り返り、目標に向かって努力するためには希望と信念をもつことが大切であり、くじけずにやり抜こうとするよさについて、自分との関わりで考え深めている。

7 板書

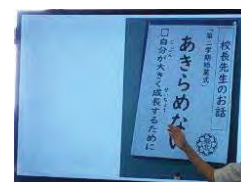


人間の強さと弱さの対比や、頑張りが続いていくサイクルを視覚的に表した板書。

8 考察

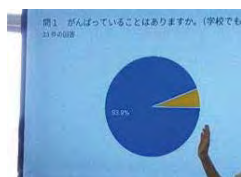
(1) 導入

学校の今月の校長講話「あきらめない」と関連させて、本時の課題を提示することで、道徳教育の指導への布石を打つことができた。また、事前アンケートを提示することで、偉人の話題から自分の身近な問題へと意識を転換することができ、問題意識をもたせることができた。



(2) 展開

主発問では、ICT「心の数直線」でポジショニングしてから話し合わせることで、自分と他者の意見が明確になり、多面的・多角的な話し合いに効果的だった。話し合いでは、児童に「隣」「班」「立ち歩き」と話し合い方を選択させることで、主体的に話し合いを進めることができた。また、アプリ「ロイロノート」で意見を集約することで、意図的な机間指導や指名に生かすことができた。



(3) 終末

個別最適な振り返りになるように、振り返りの視点を明示した。「明日からの自分はこうしたい」「6年生までにこうなりたい」「大人になったらこうなりたい」の選択肢を与えて、考えが深められそうなものについてノートに記述させることによって、児童が自分の現状を振り返り、明日生かせそうなものか、今後生かしていけそうなものか、よく考えることができていた。

道徳科授業実践提案

指導者 川口市立戸塚西中学校 教諭 堀越 龍太

- 1 **主題名** 正義の実現 **内容項目** C-(11) 公正、公平、社会正義
関連項目 B-(9) 相互理解、寛容 D-(22) よりよく生きる喜び
- 2 **ねらい** 良男のクラスでの人間関係の変化を考える活動を通して、クラスメイトがそれぞれの立場で誰に対しても同調圧力に流されないで行動しようとするものの大切さに気づき、見て見ぬふりをするのではなく正義が通りやすくなるような社会をつくれるような態度を育てる。

教材名 「正義の声」 (出典:「さいたま市読み物資料 はばたき」さいたま市教育委員会)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

内容項目 C-(11) は「正義と公平さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること」をねらいとしている。「正義を重んじる」とは、正しいと信じることを自ら積極的に実践できるよう努めることである。正義とは人が踏み行ふべき正しい道筋や社会全体としての正しい秩序などを広く意味し、法にかなっていることや各人に正当な持分を与えるという意味もある。

中学校段階では、いじめや不正な行動等が起きても、勇気を出して止めることに消極的になってしまうことがある。そうした自分の弱さに向き合い、同調圧力に流されないで必要に応じ自分の意志を強くもったり、学校や関係者に助けを求めたりすることに躊躇しないなど、それを克服して正義と公正を実現することが大切である。単に現状を諦めて見過ごすのではなく、正義と公正を重んじる立場から道徳上にどのような問題があるかを考え、その解決に向けて協働し話し合うことが求められる。

(2) 生徒のこれまでの学習状況及び実態について

小学校の段階では、特に高学年で誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めるものの大切さについて学習している。

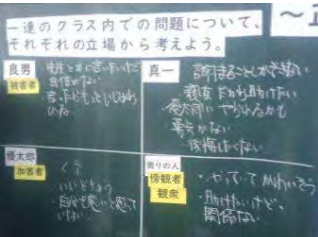
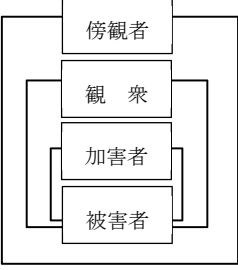

生徒の実態として、1 学年 3 学級に対して「あなたは正しくないと思うことに声をあげられますか?」というアンケートを実施。「はい」と回答した生徒は全体の 10% 程度であった。正しさを判断することはできるが、自らが行動し正義を実現することは難しいと感じている生徒が多い。「どんな時、場面でそう思っているか」という問いに対しては、「何か悪いことをしている人がいた時」「電車の中でマナー違反の人を見つけた時」「係や当番の仕事をさぼろうとしている人を見つけた時」「友達に嫌な思いをしている時」といった回答があった。また、正義についてのイメージとして、アンパンマンや仮面ライダーなどのヒーローを思い浮かべる生徒が多く、みんなを助けてくれたり救ってくれたりするといった思いが強い。一方、「そういう存在はとても大事だが、自分はそうはなれない」という正義の実現に向けて自らが行動することにネガティブな考えをもつ生徒がほとんどである。正義の心を行動にうつせるようにするために何ができるかを考えさせられるよう指導していく。


(3) 教材の特質や活用方法について

いじめによる被害者、加害者、傍観者の構造を中心にそれぞれの立場での考えや行動の難しさを取り上げ、「公正、公平、社会正義」について考える教材である。身近な話題をテーマにした教材でもあり、どの学級においても起こりうることを体験的に学習できる特質がある。主人公の良男が人間関係の中から苦痛を感じていることについて気づきを深めていき、親友である真一が助けてあげたい心と行動することの難しさに葛藤することにも触れさせていきたい。傍観者であるクラスメイトが同調圧力に負けず、見て見ぬふりをせずに正義の信念にしたがい行動することから、正義について考えさせていきたい。そのために、最終ページにある「正輝の言ったこと」を取り扱い、自らの正義の声についての考え方から、正義の実現に向けてどんなことが大切かを考えさせていきたい。終末では本教材から学んだことを生かし、ここまでの自分を想起した振り返りをしていく。

4 学習指導過程

過程	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1 アンケート結果を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは正しくないと思うことに声をあげられますか？ ・どんな場面でそう思うか？ ・どうしてそう思うか？ <p><研修で出た他の案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して生活するためにどんな行動をとっているか？ ・見て見ぬふりをしてしまったことはあるか？ ・正義ってなんだろう？ <p>2 ねらいとする価値について理解する。</p> <p>テーマ：正義の実現に向けて</p>	<p>・本時の見通しをもつ。 <3学級の実例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・はい10% いいえ90% <p>さぼろうとしている人を見た時</p> <p>何か悪いことをしている人がいた時</p> <p>電車の中でマナー違反の人を見つけた時</p> <p>自分だけだと恥ずかしい</p> <p>勇気が出ない</p> <p>嫌われたら嫌だ</p> <p>めんどくさいことになりたくない</p> <p><正義のイメージ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンパンマン etc. ・正義の味方、ヒーロー ・いてくれると助かるがなかなかない…。 	<p>○forms による事前アンケートを活用してねらいとする価値を方向付け、問題意識をもたせることで主体的な学習へとつなげる。</p> <p>○身近にあることに気付かせるよう声掛けをする。</p> <p>○場面が理解しにくい生徒には隣に行き、具体例をあげて考えさせる。</p> <p>○teams のチャット機能を活用し、多くの考えに触れるようにする。</p> <p>○理想の正義と行動することの難しさの経験を出させる。</p> <p>○イメージをもちやすいよう、身近な例をあげる。</p> <p>○テーマを掲げて、学習の目標を明らかにする。</p>
	<p>3 登場人物・条件、状況（状況）を把握する。</p> <p>4 教材を読み話し合う。</p> <p><研修で出た他の案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のクラスのことも頭に入れながら聞こう。 ・「正義の声があふれていた」のところで一度読み終える。 	<p>条件、状況の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公（良男）の視点に立ち範読を聞くように伝える。 <p>「正義の声があふれていた」で一度読むのをやめ、活動に入る。最後の部分は最終発問時に範読。</p>	<p>○範読の前に登場人物、条件・状況をおさえ整理しておく。</p> <p>○生徒の反応を確かめながら臨場感のある範読をし、印象深いところをチェックさせる。</p> <p>○内容を理解するのが困難な生徒には指で追いながら読むように伝える。</p>
展開	<p>— 展 開 前 段 —</p>		
	<p>(1) 一連のクラス内での問題について、良男、真一、優太郎、他のみんな、それぞれの立場から考えよう。</p> <p><研修で出た他の案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・傍観者としてみてしまうことについてどう考えるか ・良男はどうしていきいたのか ・行動にうつせる人とそうでない人の違いは何か ・真一がメールを送ったときの気持ちとは ・良男の決心とは ・優太郎の行動についてどう考えるか ・優太郎はどんな気持ちで発言したのだろうか 	<p>【良男】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめは戻ろうかどうか迷っていた。 ・真一のメールを見て、頑張っ立ち向かうと勇気を出して決心した。 ・優太郎から逃げたい。 ・机が出された時、心が折れそうになった。 ・なんで誰も助けてくれないのか。なんで何度も繰り返し嫌がらせをするのか。 <p>【真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良男に申し訳ない。 ・何もできなくてごめん。 ・自分もやられるのが嫌だ。 ・机を出された時は、やっぱりまきこまれた。で 	<p>○登場人物それぞれが各場面でもう感じていたのかを多角的に考えさせる。</p> <p>○「正義の実現」に向けて困難となっている部分に気付かせ、心の弱さと向き合わせる。</p> <p>○いじめの構造（被害者、加害者、観衆、傍観者）を理解させ、生徒間の対話をさせることで、自分の考えていなかったそれぞれの登場人物の立場の考えに気付かせる。</p> <p>○4人1組で対話や議論を展開させる。</p> <p>○立場カードを用いて議論の活発化を図る。立場カードは、登場人物同士の心情を中心に各場面において設定にしたがいロールプレイを行うことで</p>

<p>・問題を解決するための解決策を構想しやすくするために、より多面的・多角的に考えられるような発問を選択した。</p>   <p><いじめの4層構造を板書></p> <p>(2) 話合いの場を設け時、みんなが何も言えなかったのはなぜだろう？</p>	<p>も、良男がいてくれて、自分の行動が間違いいではなかったと思えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなも自分と同じように行動するべき。 <p>【優太郎】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は悪くない。 ・まだ気が済まない。なぜなら自分の思う問題は解決していないから。 ・良男が謝ってくれないと許せない。それだけ自分も嫌な気持ちになった。 <p>【他のクラスメイト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわいそう。 ・まきこまれたくない。 ・優太郎がやめれば全部終わるのに。 ・何もしていないことへの罪悪感。 <p>・優太郎も聞いているから何も言えない。</p> <p>・言ったら大人数でやられるから勇気が出ない。</p> <p>・正しさはわかるが、行動にうつす勇気がない。</p>	<p>互いの考えを深めていくことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アドバイスの発問として、「良男の決心とは」「真一がメールを送ったときの気持ちとは」「机が出された時はどんな気持ちだったか」などを巡回しながら声をかけていく。 ○話合いが苦手な生徒に対してはホワイトボードやタブレット、心情円などを使い議論への積極的な参加を促す。 ○過去に同じような経験から苦痛を感じたことのある生徒への配慮として一つの立場に偏らないように指導していく。 <p>☆課題解決に向け、様々な視点から公正、公平、社会正義について考え話し合っている。</p> <p>○社会正義を実現することの難しさについて共有する。</p> <p>○勇気のある行動を遠ざけるものが何かを明確にさせる。</p>
— 展	開 後	段 —
<p>(3) 正輝はどんなことを言ったのだろう？</p> <p><研修で出た他の案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解してもらえるようにするにはどうすればよいか ・それぞれの正義とは何か <p><実際に生徒が書いた「正輝の声」></p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんなクラス嫌だ。みんなで楽しいクラスにしよう。 ・みんなは優太郎を仲間と呼べないのか？なぜ？ ・見て見ぬふりはやめよう。言いやすい雰囲気になろう。 ・自分だけでもいいから二人を助けたい。 ・優太郎がやっていることはよくない。でも、何もしないで見ていることも同じくらいよくないこと。 ・「かわいそう」だけで終わらせていいのか。 ・個人の問題ではない。クラスで協力して解決すべき。 ・何がよくなかったのかをみんなで話そうよ。 ・一人じゃ難しいからみんなで勇気を出して話そう。 ・正しいことがわかっているけど、ただ見ているだけの僕たちは傍観者だ。加害者でもあるのでは。 ・正しいことは行動にうつさないと意味ない。みんなで解決策を話し合おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・優太郎の行動は間違っていることで許されない。 ・みんなはこのままでいいのか。みんなも関係者。 ・見て見ぬふりをするのももうやめよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○範読の続きを読みあげ、最終ページの吹き出しを活用し、正輝として何を言ったかを自由に書かせる。前段での内容をつなげられるように板書等を活用し、振り返りながら進める。 ○書く活動→4人1組で伝え合う→数名の発表。 ○書くことが困難な生徒のためにタブレット入力できるような吹き出しを準備しておく。 ○正輝の発言がきっかけとなってクラスに正義の声があふれたことを考えさせる。 

	<p>(4) 正義の実現に向けて必要なことはなんだろうか？</p> <p>＜研修で出た他の案＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたがもっている正義とは ・正義の声とはなんだろう <p>本時の問題解決的学習の解決策のまとめとなるようにしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見て見ぬふりをしない。 ・誰かのために勇気を出すことが必要。 ・自分以外の人の気持ちに寄り添うことが必要。 ・誰に対しても平等にすることが大切。 ・誰かに助けを求める。 ・自分の意志を強くもつ。 ・みんなで力を合わせられるよう話しやすい場をつくっていく。 	<p>○タブレットに入力し、全員で共有する。数名の者を教師が選り発表させる。</p> <p>○正輝の声を踏まえて、クラスメイトの一員だったらどんな行動をするかを関連させて考えさせる。</p> <p>○理解しにくい生徒には、いじめの構造を再度提示し、解決策の手立てとしていく。</p>
	<p>5 今日の授業を自分と関連づけて振り返る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・心ではわかっているけど行動することは難しいと思っていたが、少しの勇気を出すことが大切だと思った。 ・これからは自分の正義を大切に、誰に対しても公正、公平にいられるようにしていきたい。 ・いじめにあっている人がいたら声をかけたり、先生に相談したり、クラス全体で考えられるような環境をつくっていけるようにしたい。 	<p>○教材を通して感じた公正、公平、社会正義の価値理解をもとに、身の回りのことへ目を向け自分との関わりの中で「正義の実現」について考えを深められるようにする。</p> <p>○導入のアンケートを提示し自分の心の変容に気付かせる。</p> <p>☆本時の学習から気付いた「公正、公平、社会正義」について、今までの自分を振り返り、これからの自分について思ったことや考えたことを記入している。</p>
終 末	6 担任の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値を想起させて、今後の生き方にあと押しし余韻を残す。

5 他の教育活動との関連

事前指導	公正、公平、社会正義に関する考えを把握するためにアンケートを実施。
家庭との連携	学級通信や道徳通信に生徒の考えを記載する。
道徳科	<p>教材名「 いじめにあたるのはどれだろう 」</p> <p>教室の様子を描いた場面絵を用いていじめにつながる行為を客観的に捉えることをねらいとして授業を行った。いじめという行為がどのようなものか、ふざけやからかいという考えとの違いについても考えを深めた。また、どうすれば差別や偏見のない社会をつくっていけるかについても考えた。</p>
他教科との関連	<p>学級活動や生徒会活動 人権教育 ソーシャルスキルトレーニング</p> <p>いじめ0サミットやいじめ撲滅運動 生活アンケートの活用</p>
事後指導	道徳コーナー等の連携を図り道徳教育を深める。

6 評価の視点

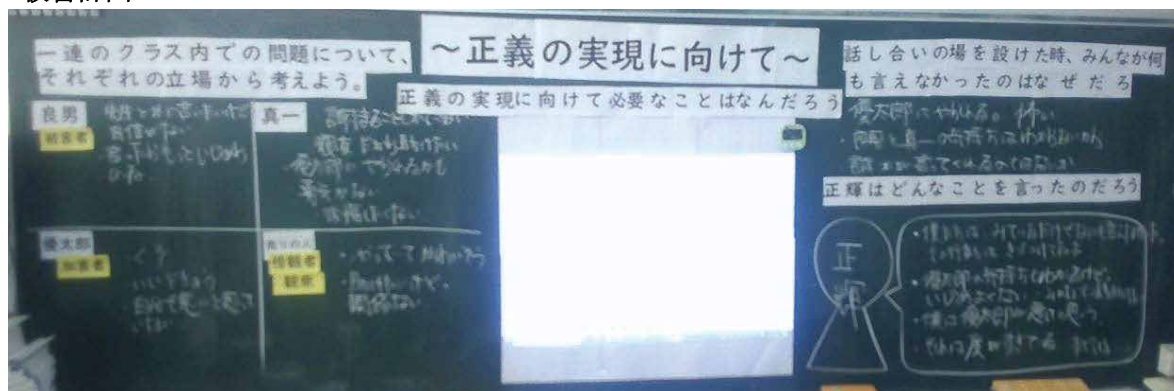
【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・課題解決に向け、様々な視点から公正、公平、社会正義について考え話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・考え話し合う活動を通して、今までの自分を振り返り、これからの自分の生き方を見つめている。

7 板書計画



8 授業実践後の考察

(1) 導入

本授業では正しさと行動の難しさの葛藤に主眼を置き、自分の弱さに向き合い、正義の実現に向けて考えを深めていく授業をねらいとした。そのため、既習事項であったいじめの構造については、導入時に確認しておくことも効果的であった。事前にアンケートを実施したが、内容については夏季研修会で出た案の中から、「正しくないと思うことに声をあげられるか？」という問いを立てた。理由としては、本時の問題解決的な学習を行うにあたって、日常生活の中から道徳的な問題を見付けることが重要であり、自分事としてとらえやすく、授業を振り返ったときに考えの変容に気付きやすくなるためである。学習への取り組み方としては、forms や teams のチャット機能などが有効的であった。正しくないと思いながらも行動できないということを人に知られると恥ずかしいと感じ、本音を話せない生徒もいたので配慮が必要である。

正義の実現について考えるうえで、「正義のイメージ」をみんなで共有することは、展開につながりやすく、効果的な導入であった。生徒たちから多く出た考えは、「正義を行動にうつすことはかっこいい」「助かる」「必要だ」が、「自分にはできない」というものがほとんどであった。生徒からは、「そうだよな。うーん。」といった心の揺れを感じた。テーマを掲げ、問いかけて導入を終了した。このことから、問題の発見と解決策の探究意識をもって展開に入ることができたといえる。

(2) 展開

発問については夏季研修会で出た案の中から組み立てた。展開の前段部では、それぞれの立場からの考えを深め、正しくない行動への意識を高めて、解決するための策を構想できるようにした。発問(1)では、「良男の決心」「真一のメール」「机が出されていた時のこと」「優太郎の発言」に触れながら、いじめの構造とそれぞれの立場で考え、共感を深めた。立場カードを使い生徒同士で、主体的な対話を実践した。教師と生徒のやりとりでなく、生徒自身が進めることで効果的な学習の場となった。問題を明確にし、多面的・多角的に考えたうえで、正しくないとわかっていながらも行動できない心の弱さについて向き合うこともできた。前段の最後は、話し合いの場で誰も何も言えなかったことについて触れて発言させていった。

展開の後段部では、傍観者にしばって考えを深めていった。傍観者の一人である正輝がどんなことを言ったかを吹き出しに書かせた。自分の考えをじっくり整理し記述させた。正輝の声を考えることで、クラスの一員としての正義の実現への関わり方を考えることができる。書いたものを互いに伝え合う活動を行った。

正輝があげた声から正義の実現に向けて大切なことは何かを考え、探求のまとめへと入った。タブレットを使って、全員の考えを知ることができるようにした。数名を選び、発表させた。解決策を発信し、他者の考えを踏まえて、最後に自己の生き方と重ねて再考した。

(3) 生徒の振り返り

いじめにあってる人や、いじめをしてる人それを見てる人など、みんなが思っていることがあった。いじめのないクラスにするには、誰かが声を出して言わないといけないから、みんなが自信、勇気を持って発言することが大切だと思いました。

気づいたこと、感想 今までの自分を振り返り、これからの自分に… 正義とは、いじめを止めるために「最初の一言、発言」がその人を救う、第一歩の行動だと思う。自分は、これまで勇気がなかったけれど、今日で、正が勇気を出して、発言すれば、救えるということをしり、扶、みんな仲になる、笑顔、かぶるなど、いろいろな方向から、自分も頑張りたい。

同調圧力に流されないためにどのような行動をとっていくべきかを考える生徒や、見て見ぬふりをせずに向き合っていこうとする気持ちが出たと答える生徒が多かった。

4 長期研修教員報告

○ 蕨市立塚越小学校

島藤 和也 先生

○ ふじみ野市立大井西中学校

川内 紗貴 先生



自己の生き方についての考えを深める道德教育 ～一人一人が「自分にとって価値がある」と感じられる道德科の学習を目指して～

蕨市立塚越小学校 教諭 島藤 和也
(十文字学園女子大学 浅見 哲也 研究室)

1 主題設定の理由

現代社会は「VUCA 時代」とも称され、急激な社会の変化に伴い、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが重要な課題となっている。そうした中で、学校教育では社会を構成する一人一人が高い倫理観をもち、多様な価値観を認識しつつ、自ら考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を育むことが求められている。道德教育は、人が一生を通じて追求すべき人格形成の根幹に関わり、同時に民主的な国家・社会の持続的発展を根底で支えるものであり、これからを生きる子どもたちが、現代社会が抱える課題に対応し、よりよい社会と幸福な人生を切り拓いていくために大きな役割を担っているといえる。我が国の目指す道德教育を実現させるには、子供たちに単に知識を与えるのではなく、いかに「自分事」として道德的価値に多面的・多角的に向き合い、自己の生き方についての「納得解」を追求し、自律的に生きるための人格的な基盤を培う学習を行っていくかが最重要課題であるにとらえ、本主題を設定した。

本研究では『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編（文部科学省）』の第2章2節で示されている「道德科の目標」における「自己の生き方についての考えを深める学習」を、浅見（2021）¹の考えをもとに、以下のように解釈して進めていく。

- ・これまでの生き方やこれからの生き方を見つめ直していくこと
- ・自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己について考えること
- ・これからの生き方の課題を考え、実現していこうとする思いや願いを深めていくこと
- ・道德的価値について、自分にとってどのような意味をもつか、どのように生かせるかを自己内対話すること

2 基礎研究

本研究では、「自己の生き方についての考えを深める学習」を支える理論的基盤を明らかにするため、道德性の発達や価値づけに関する先行研究を整理し、その知見を基礎研究として位置付ける。以下では、子供の道德性がどのように形成されるのか、また学習者がどのようなときに学習を価値あるものとして認知するのかについて、代表的な研究をもとに検討する。

（1）子供の道德性はどのように養われるか

子供の道德性は、生得的に備わった性質だけで形成されるものではなく、他者や社会との関わりの中で段階的に発達し、内面的に統合されていくとされる。発達心理学および道德心理学では、以下の3つが重要な要因として位置付けられる。

ア 社会的相互作用を通じた道德判断の発達

ピアジェ（1977）²やコールバーグ（1975）³の研究に基づけば、道德性は他者との意見交換やジレンマ場面での思考を通して発達する。特に、複数の価値が衝突する状況において、子供は自らの考えを再評価し、より高次の道德判断様式へと進むとされる。このような認知的葛藤は、子供の思考を活性化し、新しい視点を取り入れる契機となる。つまり価値は単に「知る」だけでは形成されない。コールバーグやデューイ（1975）⁴が指摘するように、自分の考えと他者の考えを比較し、矛盾や不一致を感じ

る中で、子供は価値の本質にせまっていく。この過程では、問いを中心とした対話が重要であり、多様な意見に触れることで、価値の多面的理解が促される。

イ 情動的経験を土台とした価値への気付き

ハイト（2013）⁵が指摘するように、道徳的判断には情動が大きく関与する。共感や感動、理不尽さへの怒りなどの体験は、子供にとって価値に対する「気付き」の引き金となる。物語や具体的な体験活動が道徳教育において重要視されるのは、心が動く経験が価値理解の出発点となるためである。また、ヴィゴツキー（1988）⁶が示すように、他者からの語りや対話を通して価値への注意が喚起されることも多い。

ウ 自己との関係づけを通した価値の内面化

ロジャーズ（1970）⁷や、デシ&ライアン（2014）⁸によれば、価値が内面的に獲得されるためには、その価値が「自己の生き方と結びつくこと」が不可欠である。道徳的学びは、単に正しさを知識として理解するだけでは不十分であり、「自分ならどうするか」「どのように生きたいか」という自己の問題として考えることで、初めて深い内面化が起こる。デシ&ライアンの自己決定理論が示すように、価値を自ら意味づけ、自分で選び取ったと感じられるとき、それは行動の基準として持続可能なものとなる。したがって、道徳教育においては、児童が自らの体験や将来のあり方と関連づけて考える仕掛けづくりが不可欠である。

道徳性が 養われる要因	内容の要約	授業づくりや指導との関わり
認知的葛藤 による発達	他者の考えや事実とぶつかることで、自分の価値観が揺さぶられ、より高次の判断へと進む。	葛藤場面を含む教材を活用したり対話活動を行ったりし、子供が「考えたくなる」状況をつくる必要がある。
情動的経験 による価値 への気付き	感動・共感・怒りなどの心の動きが、新しい価値への気付きを促す。	物語・映像・体験活動など、心を動かす教材を活用し、子供の心に働きかけることが価値理解の土台になる。
自己との関 係づけによ る内面化	新しい価値が「自分ならどうするか」に結び付くことで、行動原理として内面化される。	「自己の生き方」や経験と関連づけて考える問いかけ、振り返りが重要である。

表1 道徳性が養われる要因と授業づくりや指導との関わり 先行研究をもとに筆者が作成

（2）子供たちはどのようなときに「価値がある」と感じるのか

道徳性は認知的葛藤や情動的経験、自己との関係づけを通して発達するが、たとえ発達心理学に基づく指導を行ったとしても、**学習者自身がその学習を「自分にとって価値がある」と感じなければ、価値の内面化にはつながりにくい。**自己決定理論が示すように、価値づけは自律性・有能感・関係性の充足によって促進され、自己効力感や意味理解も学習への関与を高める重要な要因である。したがって、道徳科において学習者が価値を感じる心理的条件を把握することが不可欠である。以下では、人が何を価値ある学習として認知するのかを整理する。

子供たちが道徳科の学習を「価値がある」と感じるためには、複数の心理的要因が関係している。まず、自己決定理論を提唱したデシ&ライアンが示すように、人は自ら主体的に取り組んでいると実感できるとき、その活動を価値あるものとして認識しやすい。反対に、外発的に強制されていると感じると、価値づけは生じにくい。また、自己効力感を提唱したバンデューラ（1983）⁹に基づけば、学習者が「理解できている」「自分に

も考えがもてる」と感じることで、価値の認知を高める要因となる。さらに、バウマイスター&リアリー（1995）¹⁰が指摘するように、人は他者とのつながりや承認を経験する活動に価値を見出す。道徳科の学習における対話や意見交流は、この「関係性」の欲求を満たし、価値づけを強化する要素となる。一方、価値論・目的論の観点からは、フランクル（1961）¹¹が述べるように、人は活動の目的や意味を理解したとき、その活動に深い価値を感じやすい。また、シュワルツ（2006）¹²の価値観研究においても、価値は個人の生活目標と結びつくとき、強く内面化されるとされる。加えて、情動研究の領域では前述のハイトが示すように、人は感動や共感、驚きといった心の動きを伴う経験に、高い価値を認知する。したがって、価値づけのためには、学習者の情動を揺さぶる教材や場面づくりが重要となる。

以上より、子供たちが「価値がある」と感じるためには、**意味理解（Meaning）・有能感（Competence）・自律性（Autonomy）・関係性（Relatedness）・情動喚起（Emotion）**という**5つの心理的要素**が複合的に働く必要がある。道徳科においてこの価値づけが成立して初めて、子供たちは学習内容を自己の生き方と関連づけながら深めることが可能となる。本研究では、これらの要素「生き方」と結びつきの強い意味理解を中核にして **M-CARE**（Meaning・Competence・Autonomy・Relatedness・Emotion）**モデル**として整理し（表2）、道徳科における価値づけを生み出す心理的枠組みとして位置付ける。

「価値がある」と感じられる要因	内容の要約	授業づくりや指導との関わり
㉓ 意味・目的の理解 (Meaning)	「なぜ学ぶのか」「何のために考えるのか」が理解できたとき、価値を高く感じる。 意味づけが不明確だと価値は感じにくい。	学習の目的の提示や扱うテーマの意味に気付くための導入を行う。 児童の生活経験や「生き方」と結びつける。
㉔ 有能感 (Competence)	「わかる」「できる」「考えられる」という感覚があると、学習の価値づけが高まる。 難しすぎたり、自分には無理だと感じたりすると価値を感じにくい。	発言しやすい環境づくり、明確な問いの提示、具体例の提示などによって、児童が考えやすい授業をつくる。
㉕ 自律性 (Autonomy)	自分の意志で学習に取り組んでいると感じるとき、価値を強く認知する。 「やらされている」という感覚は価値づけを阻害する。	児童が「自分で考えたい」と思えるような問いを設定する。 選択肢や自己表現の場を保障し、自主的な思考を促す。
㉖ 関係性 (Relatedness)	他者とのつながっている、受け入れられていると感じるときに価値を見出しやすい。 孤立感がある場合、価値は感じにくい。	安心して意見を言える雰囲気づくり。 対話や交流活動を通して「自分の考えを聴いてもらえた」という経験を保障する。
㉗ 情動喚起 (Emotion)	感動・共感・驚きなどの心の動きがあると、人はその経験を価値あるものとして認識しやすい。	物語・映像・実話など、心が動く教材を活用する。 児童の気持ちの変化を言語化する活動を設ける。

表2 道徳科における価値づけを生み出す心理的枠組み「M-CARE モデル」 先行研究をもとに筆者が作成

以上の先行研究の検討から、子供たちの道徳性が養われる要因（認知的葛藤・情動的経験・自己との関係づけ）と、学びを「価値あるもの」と認知するための心理的要素（自律性・有能感・関係性・意味理解・情動喚起）が明確になった。これらの知見は、道徳科において自己の生き方についての考えを深めていくための基盤をなすものであり、授業づくりにおいては、これらの要因を前提として学習環境や活動をデザインすることで、学びの最適化が図られると考えられる。本研究では、この理論的知見を基盤として、学習内容の価値づけを促す条件と、それを踏まえた授業観・指導観について考察する。

3 仮説

前章を踏まえると、子供たちが道徳科の学習を「自分にとって価値があるもの」と感じ、自己の生き方についての考えを深めていくためには、学習環境や活動の在り方が極めて重

要であることが示唆される。そこで本章では、道徳性の発達要因および価値づけを促す心理的要素を土台として、子供たちが学習内容を自らの生き方と結びつけて考えられるようにするための授業の方向性について検討する。

ここで提示する授業の構想自体は、今日の小学校道徳科において広く実践されている内容と重なる部分も多い。しかし、その学習活動に込められた目的や意図、期待される効果への理解が十分でない場合、活動が形式的に流れ、子供自身の価値の形成や内面化に結びつかないことがある。本提案は、個々の手法を提示することを目的とするのではなく、授業の背景にあるべき指導観、さらには教師の意識の在り方について、理論に基づく方向性を示すものである。

子供が「価値を感じる」授業環境のデザイン（価値づけを高めるための条件づくり）

子供が道徳科の学習を「自分にとって意味がある」と感じること。これが成立しなければ、道徳性の深化は極めて起こりにくい。そこで、「価値づけ」を生む5つの要因をもとに、授業環境の設計および指導上の留意点について検討する。

（1）心が動く導入や教材設定（㊦情動喚起・㊧意味理解）

一主題一単位時間で行われることが一般的である道徳科の学習において、45分間という限られた授業時間の中で、導入場面において子供たちの情動を喚起し、「考えたい」という内発的動機づけを高めることは極めて重要である。短い映像や写真、音声、数十秒で読めるエピソードなど、短時間で心を動かす素材を用いることで、問いが自然に生まれる状況を設定することができる。また、子供たちの日常生活に近い話題を扱うことは、教材と自己との心理的距離を縮め、学習内容の意味理解を促進する。

さらに、問題意識を喚起するために、「あなたなら、どう感じる？」といった揺さぶりの問いを投げかけることは、情動的反応を引き出す上で有効である。加えて、「今の気持ちを一言で表すと？」といった情動の言語化を促す問いは、子供自身が心の動きを自覚し、思考を開始する契機をつくる。これらの工夫により、導入場面が単なる導入にとどまらず、子供が自分の価値観や生き方と向き合うための出発点として機能する。

（2）考えを言いやすい・持ちやすい問いの設計（㊨有能感）

子供が道徳の授業で「考えられる」「わかる」と感じすることは、有能感を支え、学習へ主体的に参加するための重要な条件である。適切な思考の足場が用意されていれば、子供は自分の力で考えをもつことができ、学習内容の価値づけにもつながる。そこで、有能感を高める問いの設計として、段階性と具体性のある発問が求められる。

まず、段階的に問いを設定することが有効である。

① 事実確認 → ② 心情理解 → ③ 価値の発見 → ④ 生き方への接続

という順に問いを構成することで、子供の思考を少しずつ深めていくことができる。認知的負荷の低い問いから始め、徐々に抽象度の高い問いへ進むことで、誰もが参加しやすい対話の場を生み出す。また、具体から抽象へとつながる問いの流れを意識することも大切である。

① 「主人公はどんな気持ち？（具体）」

② 「主人公はどんなことを考えた？（具体）」

③ 「あなたが大切にしたい価値は？（抽象）」

といったように、具体的事象から自分の価値の発見へとつなげることで、考えをもつことが容易になり、有能感が高まる。

(3)生活や自分の生き方につながる価値づけ (M意味理解)

学習内容を子供が「自分に必要な学びである」と認知するためには、教材の特性やねらいとする道徳的価値に応じて、活動や発問を柔軟に構成し、子供の心理的条件を満たす必要がある。本研究では、学習内容の価値づけを促す心理的条件として「生活接続性」「自己一致性」「将来接続性」「新奇性」「自己向上性」の5つの条件を設定した。さらに、学習指導要領解説に示されている22の内容項目を、本研究の5つの条件に基づいて分類し、それぞれがどのように価値づけに関わるのか、授業での発問との関連についてを整理したものを以下に示す。

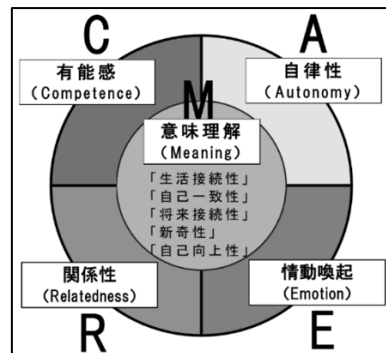


図1 意味理解を中核とするM-CAREモデルと価値づけの心理条件の構造 筆者作成

価値づけ条件	生活接続性	自己一致性	将来接続性	新奇性	自己向上性
概要	生活の困り感・日常の経験との直接的な関連	理想の自己像・自分が大切にしたい価値に合致	これからの人生に必要なと感じる／未来の自分への価値	意外性・他者の生き方・異文化・未知の概念による興味	自分を鍛えたい・改善したいという意識
分類	身近な人間関係・日常の葛藤に関する項目	“こうありたい自分”という価値観や信念に係る項目	キャリア観・社会観・未来の生き方に関わる項目	ふだん考えない対象・世界を広げる項目	自分の弱点・課題・成長に直接関わる項目
関連の深い内容項目	7 親切、思いやり 8 感謝 9 礼儀 10 友情、信頼 11 相互理解、寛容 12 規則の尊重 15 家族愛、家庭生活の充実 16 よりよい学校生活、集団生活の充実	1 善悪の判断、自律、自由と責任 2 正直、誠実 3 節度、節制 4 個性の伸長 5 希望と勇気、努力と強い意志 6 真理の探究 22 よりよく生きる喜び	12 規則の尊重 13 公正、公平、社会正義 14 勤労、公共の精神 16 よりよい学校生活、集団生活の充実 17 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 18 国際理解、国際親善	6 真理の探究 11 相互理解、寛容 17 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 18 国際理解、国際親善 19 生命の尊さ 21 感動、畏敬の念	1 善悪の判断、自律、自由と責任 2 正直、誠実 3 節度、節制 5 希望と勇気、努力と強い意志 12 規則の尊重 14 勤労、公共の精神
条件に基づく発問のデザイン	自分事と実感できるようにする問い。「こういうこと、みんなにもあるよね」「友達に注意するのは難しいよね、あなたはどうか？」	理想の自己像や大切にしたい価値観と学習内容を結びつけるようにする問い。「あなたが大切にしたいことは？」「自分と比べて、主人公は？」「未来の自分に必要な考えはどれ？」	大人になった自分の姿や社会で生きる将来像と関連づけて見通しをもって考えられるようにする問い。「大人になっても大切なことって何だろう？」「あなたが困った立場になったら、この価値はどう役に立つ？」	当たり前の枠組み（視点・状況・時間軸・文化・価値軸・情報）を意図的にずらす問い。「もし○○だったら？」	過去の行動と理想の自己像とのギャップを自覚させ、改善可能性と価値の意味づけを通して、未来の具体的行動につながる思考を促す問い。「あの時の自分の行動を振り返って、今の自分はどうか思う？」「その価値を大事にする理由は何？」

表3 「自分に必要な学びである」と認知するための5つの心理的条件の分類と道徳科の学習との関わり 筆者作

(4)自分が選んで考えている感覚を保障 (A自律性)

道徳科における自律性の保障は、子どもが自らの価値観や経験に基づいて思考を選択し、学習内容を自分に最適化していくプロセスであり、文部科学省が示す「個別最適な学び」の本質と深く重なる。道徳性とは、一人一人の道徳的諸価値が内面で統合され形成されるものであり、その特質はきわめて多様で個別的である。したがって道徳の学びは、「正解を当てる授業」ではなく、「自分で価値を選ぶ授業」である必要がある。個人で考える時間を確保すること、考えをまとめるツールを選べるようにすること、自分で問いを立てる活動を取り入れることなど、個別最適な学びの実現に向けた手立ては、

いずれも子供が“私はこの価値を大切にしたい”“私はこう生きたい”と主体的に考えを深めることにつながっている。

(5)意見を受け止めてもらえる対話の場づくり(⑩関係性)

子供が自分の考えを安心して表出できることは、道徳科の学びにおける価値づけの前提となる。自分の意見や気持ちを「受け止めてもらえる」という感覚が保障されて初めて、子供は他者の意見を聞き、自分の考えを深めようとする意欲をもつ。しかし実際には、子供にとって道徳の学習で自分の考えを語ることは多くの不安を伴う。そこで、これらの不安要素を取り除くための環境づくりと教師の姿勢について整理する。

不安要素	不安要素を取り除く環境づくりや教師の態度
友達からの評価を気にする	対話規範の設定(「否定しない」「最後まで聞く」「理由を大切に使う」など)
正解があるように感じる	正解探しを生まない問いの設計(「どちらが正しい?」ではなく「なぜそう考える?」と理由に焦点を当てるなど)
気持ちや考えを言語化する のが難しい	語彙の提供、思考整理ツールの活用、非言語表現の許容、十分な思考時間の確保
教師の誘導・押し付け・否定	教師が多様な考えを尊重し、子供とともに学ぶ姿勢をもつ

このような関係性の保障は、子供が「自分の考えを受け止めてもらった」という経験を通して、道徳科の学習に安心して参加し、自分にとって大切な価値を主体的に選び取ろうとする意欲を高める。その結果、自己の生き方についての考えを深める学びへとつながっていく。

4 ここまでのまとめと研究の今後

本研究では、現代社会の変化に伴い求められる道徳教育の在り方を踏まえ、子供が学習内容を「自分にとって意味がある」と感じながら自己の生き方を探究していくための条件を検討した。基礎研究では、道徳性が認知的葛藤・情動的経験・自己との関係づけによって発達すること、人が学習に価値を見出すためには自律性・有能感・関係性・意味理解・情動喚起の5つの要素が重要であることを明らかにした。その上で、学習内容の価値づけを促す条件(生活接続性・自己一致性・将来接続性・新奇性・自己向上性)を整理し、内容項目との関連、授業構成や発問・対話の在り方について検討した。これにより、子どもが自らの経験や願いと価値を結び付けながら考えを深めていくための授業環境の構想を示すことができた。今後は、本研究で得られた理論的枠組みを土台として、具体的な授業実践と結び付けながら検証を重ねることで、「考える価値のある道徳科の学習」の実現に向けた実践的知見を蓄積していきたい。

文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』文部科学省、2017年

- 1 浅見哲也『道徳科 授業構想グランドデザイン』明治図書、2021年
- 2 J・ピアジェ『児童の道徳判断の発達』(滝沢武久訳)新曜社、1977年(原著1932年)
- 3 L・コールバーグ『道徳性の心理学』(加藤隆勝訳)誠信書房、1975年
- 4 J・デューイ『経験と教育』(松野安男訳)講談社学術文庫、1975年(原著1938年)
- 5 J・ハイト『しあわせの仮説』(高橋洋訳)早川書房、2013年
- 6 L・ヴィゴツキー『思考と言語』(柴田義松訳)明治図書、1988年(原著1934年)
- 7 C・ロジャーズ『パーソナリティの理論』(伊東博訳)誠信書房、1970年(原著1951年)
- 8 E・デシ R・ライアン『人を伸ばす力—内発と自律の心理学—』(桜井茂男監訳)金子書房、2014年
- 9 A・バンデュラ『自己効力感』(安藤延男ほか訳)金子書房、1983年
- 10 R・バウマイスター M・リアリー“The Need to Belong: Desire for Interpersonal Attachments as a Fundamental Human Motivation.” Psychological Bulletin, 117(3), 497-529, 1995.
- 11 V・フランク『夜と霧』(池田香代子訳)みすず書房、1961年(原著1946年)
- 12 S・シュワルツ(S. Schwartz)“Basic Human Values: Theory, Methods, and Applications.” In Values and Motives, 2006.

互いのよさを認め合い、尊重する心を育てる道徳教育 ～考え、議論する道徳科の授業を通して～

ふじみ野市立大井西中学校 教諭 川内 紗貴
(十文字学園女子大学 浅見 哲也 研究室)

1 主題設定の理由

2020 年の新型コロナウイルス感染症の流行は、ICT の普及や生活様式、人との距離感など、様々な変化を社会にもたらし、これまで以上に多様な考え方や価値観があふれた。それは現在も続き、学校現場でも価値観の変化が加速度的に進んでいる。これからの社会では、確固たる自分自身の考えをもつとともに、互いに考えを伝え合い、そのよさに気づき、尊重しながら関係を深めていくことがより一層大切であると考ええる。

また、中学校で道徳が特別の教科となって 7 年が経過しようとしており、令和 3 年度道徳教育実施状況調査においては、「道徳の「特別の教科」化を受けた変化」における「授業時数を十分に確保して指導することができるようになった」という設問に対して 91.4% の中学校が「とてもそう思う」「どちらかというと思う」と答えていることから、中学校の現場でも量的確保は進んできている。一方で「道徳の「特別の教科」化を受けたその他の変化」では、「教科書や教科書発行者の指導書に頼る傾向が見受けられるようになった。」という課題が挙げられている。さらに、50% 以上の中学校が「話合いや議論などを通じて、考えを深めるための指導」や「物事を多面的・多角的に考えるための指導」を「道徳科」の授業を実施する上での課題」として挙げている。これらのことから、「考え、議論する道徳」という視点での道徳科の授業の質的充実も必要であると考ええる。

さらに、「道徳教育に関する現状・課題と検討事項」（令和 7 年 11 月 25 日教育課程部会道徳ワーキンググループ）においても次期学習指導要領へ向けて「『考え、議論する道徳』への転換」のフェーズから、「『考え、議論する道徳』の実装」のフェーズに移行する」とされている。

そこで、「考え、議論する道徳」を授業の質的転換の視点と捉え、さらなる道徳科の授業を充実させることで、生徒の心を耕し、互いのよさを認め合い、尊重する心を育んでいきたいと考え、本主題を設定した。

2 基礎研究

(1) 発達心理学の側面から考える互いを認め、尊重するということ

互いを認め、尊重するためには、まずは他者を理解することから始まる。そして、他者を理解するためには、その関係性が重要になってくると考える。人間の他者との関係性は、その発達の段階によって大きく変化する。

渡辺（2021）¹は仲間集団の発達について表 1 のような特徴を挙げている。

学年	小学校中学年・高学年	小学校高学年～中学生	高校生以上
仲間集団	ギャンググループ	チャムグループ	ピアグループ
関係性	排他性、閉鎖性が強くなる	親密で排他的になる	個人個人の違いを認め合う
他者との違いに関する捉え方	権威に対する反抗性、他集団に対する対抗意識が強い	内面的に同じであることを互いに言葉で確認し合う	お互いが異なることを尊重しつつ、趣味や将来、価値観などを話し合い、自分を確立していく

表 1 仲間集団の発達とおもな特徴 渡辺の図をもとに筆者が作成

特に中学生の段階では「同じ感情や価値観でいることを確認し合う「チャムグループ」へ

と変化」(渡辺, 2021) し、他者と自分との違いについてより敏感になる。それは、関係性がより排他的になることや、自分の本心が言い出せない状況にもつながる。この状態は「自身の独立性と主体性に自信をもつようになるにつれて消失し」(中間, 2024)² 高校生頃には互いの違いを認め合えるようになる。

また、中間(2024)は青年期の友人関係について、「内面的なつながりを重視する親友としての関係が求められるようになる。」「精神的支えや、他者からの承認を得る重要な源泉となる一方で、その破綻がいつ訪れるか分からないという不安の原因にもなる。」としている。一方で、「友人は自分と異なる対等な“他者”である。他者の特異性を認識することは、友だちとのトラブルなど葛藤を引き起こすこともあるが、その葛藤経験も含め、自他の区別を認識させ、自己理解を構築することに役立つ。」と、人格形成に大きく寄与することを指摘している。

これらのことから、中学生は他者との違いに敏感になることで自分の考えを表現しづらくなるが、その段階を経ることで自他の区別を認識し、やがて違いを認め、尊重する姿勢につながっていくと考えられる。

さらに、「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編」(以下、中学校解説とする。)でも「生徒の発達や個に応じた指導方法の工夫」について、年齢相応の発達の課題を把握した上で指導に当たる必要性と個々の生徒が様々な課題を抱えていることを踏まえた指導の必要性の両方の側面から配慮することが記載されている。

(2) 学習指導要領における「考え、議論する道徳」

中学校解説では、「考える道徳」、「議論する道徳」について以下のような記載がある。(下線部筆者)

「特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない」、「多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質である」との答申を踏まえ、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図るものである。

つまり、「考え、議論する道徳」とは、あくまでも道徳的な課題について自分自身の問題と捉え、向き合うことを目的としており、考え続ける姿勢が養うべき基本的資質であることから、いたずらに活発な議論を行うことや、互いの意見を伝え合うことが目的ではないということが分かる。

また、「新しい見方や考え方を生み出すための留意点」として、「道徳科の授業においては、生徒一人一人がしっかりと課題に向き合い、教師や他の生徒との対話や討論なども行いつつ、内省し、熟慮し、自らの考えを深めていくプロセスが極めて重要である。」とある。このことから、議論することが目的ではなく、生徒と生徒、生徒と教師、生徒と自分自身等、様々な対話を通して、自己理解を深めていくことが真の目的であると捉えることができる。

(3) 考え、議論する道徳と主体的・対話的で深い学び

浅見・安井(2023)³は、「考え、議論する道徳」を全ての教科等と言うところの「主体的・対話的で深い学び」であると述べている。また、求められる学習活動を「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」とすると、以下のように捉えることができるとしている。(浅見・安井の提案をもとに筆者が作成)

主体的な学び＝問題を自分事として捉え、自分自身との関わりで考えていくこと
 対話的な学び＝子供同士が交流し、多面的・多角的に考えること
 深い学び＝道徳科の目標に示されている学習をしっかりと行うこと

特に、深い学びについては、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の 学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（平成 28 年 12 月 21 日中央教育審議会）において、「道徳科における「深い学び」の鍵となる「見方・考え方」は、今回の改訂で目標に示されている、「様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えること」であると言える。」と示されている。このことから、道徳科における深い学びは道徳科の目標にある学習を行うことと等しいことが分かる。

道徳科の目標には「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」とあるため（下線部筆者）、「主体的な学び」と「対話的な学び」もこの中に含まれている。つまり、「考え、議論する道徳」とは、道徳科における「主体的・対話的で深い学び」であり、それを実現することは、道徳科の目標にある学習活動を実現することであると捉えることができる。そして、「考え、議論する道徳」を考える上で、「自分自身との関わりで考えていくこと」と「多面的・多角的に考えること」は深く関連しているということである。

（４）中学校の道徳科の授業の現状

ここまで述べたように、発達の段階から考えると、中学生の時点で他者を認めるのは難しいが、他者との対話は他者との違いを認める心を育てるという意味では有効であると考えられる。そして、「考え、議論する道徳」の実現を目指し、道徳科の目標にある学習活動を行うことが、その一つの有効な手段であると考えられる。

様々な講演や研修、現場の中学校の先生方の会話の中で、「中学校での道徳は難しい」と耳にすることが多い。その理由として挙げられるのが（１）で述べたような発達の段階によるものであるが、果たしてそれだけであろうか。「道徳教育に関する小・中学校段階の教員を対象とした調査」（東京学芸大学・R6.12）では、「道徳の時間が「特別の教科 道徳」である道徳科になって変わったこと」という設問において、各項目で次のような肯定値が出ている。（表 2）

項 目	小学校（％）	中学校（％）
子供の道徳授業への学習意欲が高まった	36.0	27.7
子供同士による話合いや議論が活発になった	46.2	48.6
道徳の授業についての教師の意識が高まった	76.6	68.6

表 2『これからの道徳教育と道徳授業を考える〈道徳教育関係基礎資料集〉』⁴内のグラフをもとに筆者が作成

この結果より、中学校の現場でも教員の道徳科の授業への関心は高まっており、以前と比べると議論が活発になったと感じている教員も少なからずいることが分かる。しかし、子どもの学習意欲が高まったと感じている教員は 30％にも満たない状況であることを考えると、教師の意欲や話合い活動の充実が必ずしも授業の質的充実につながっておらず、教師と生徒で道徳科の授業に対する認識のずれが生じていることが予想される。

そして、令和 3 年度道徳教育実施状況調査で「道徳科を含む道徳教育の充実に向けて参考としている情報」として「教科書発行者が出版している指導書や参考資料等」が 83.5％と最も高いのに対して、「文部科学省が作成した資料」は 37.5％と半数を下回っている。実際、

現場の教員からも道徳科の授業を行う際に学習指導要領へ立ち返って準備をすることはあまりないという声が聞かれる。このことから、質的充実が進まない背景には「生徒の実態」や「発達の段階」、そして、「道徳科の目標」を軸にして授業を構想していない現状があるのではないかと考える。

3 仮説

以上の基礎研究から、次の（１）～（３）を重視した授業を行うことで「考え、議論する道徳」が実現されることになり、生徒の「互いのよさを認め合い、尊重する心を育むこと」につながるのではないかと考える。

（１）発達の段階を意識したねらいの設定

中学校解説では、道徳科の授業のねらいについて、「道徳科の内容項目を基に、ねらいとする道徳的価値や道徳性の様相を端的に表したものを記述する。」としている。これについて浅見（2025）⁵は、ねらいとするのは道徳的価値であって、内容項目は手掛かりとするものであるとしている。例えば、中学校の「Ｂ礼儀」の内容項目は「礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること」であるが、この中には「礼儀の意義を理解すること」と「時と場に応じた適切な言動をとること」という２つの道徳的価値が含まれている。これについて小学校の段階での内容項目と比べると、以下ようになる。（表３）

小学校低学年	気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けること	明るく接すること
小学校中学年	礼儀の大切さを知ること	誰に対しても真心をもって接すること
小学校高学年	時と場をわきまえること	礼儀正しく真心をもって接すること
中学校	礼儀の意義を理解すること	時と場に応じた適切な言動をとること

表３ 「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編」をもとに筆者が作成

例えば、中学校の段階では道徳的価値が「礼儀の意義を理解すること」であるのに対して、中学校の道徳科の授業で小学校中学年の段階である「礼儀の大切さを知ること」に焦点を当てた指導をすると、生徒にとってはすでに分かり切っていることを考えている授業になってしまうことになる。実際、本校で行った生徒向けアンケートには、道徳科の授業がつまらないと回答した生徒の理由に「もうすでに分かっているのに、なぜ考えるのか分からない。」といった意見も見られた。このように、発達の段階によって内容項目に含まれる道徳的価値は変化していくにも関わらず、教師による発達の段階や内容項目の捉えが不十分であると、生徒と教師の間に道徳科の授業に対する感じ方にずれが生じると考えられる。

そこで、教師が発達の段階に即した授業のねらいを設定することで、生徒と教師の授業に対するずれを軽減し、より生徒の実態に即した授業が実施できると考える。

（２）学習指導過程の工夫

「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編」（以下小学校解説とする。）では、物事を多面的・多角的に考えることについて「価値理解と同時に人間理解や他者理解を深め、さらに自分で考えを深め、判断し、表現する力を育む」と記載がある。これについて浅見（2025）⁶は、下の図 1 のように、授業の展開部分で人間理解→他者理解→価値理解の順に道徳的価値の理解を深めることで、自己理解へ向かっていくとしている。中学校の道徳科の目標にも同様に、「道徳的諸価値の理解を基に」とあることから、この３つの理解を深めることで自己理解へと向かっていくと考えることができる。

また、浅見（2025）は学習指導過程について以下のような２つの「タメ」を提示している。（図 1）

- 導入から展開へ向かう際の問
題意識をもてるような発問

- 他者理解から価値理解へ向かう際の道徳的価値の自覚を深めるような発問

3つの理解の発問を行った上で、2つのタメの発問をすることで、道徳的価値についてより自分との関わりで考えられるようになると考えられる。

段階	段階の目的	教材の活用	指導上の留意点
導入	・実態や問題を知る。	日常生活で考える	・道徳的価値について、問題意識が持てるようにするために…
ポイント① 問題意識をもてるようにするためのタメ			
展開	・道徳的価値の理解を基によりよい生き方を考える。	人問理解 他者理解 価値理解 教材で考える	・自分自身との関わりで考えられるようにするために… ・多面的、多角的に考えられるようにするために…
ポイント② 道徳的価値の自覚を深めるためのタメ			
	自己理解	日常生活で考える	・自己の生き方についての考えを深められるようにするために… ・自己実現への思いや願いを深められるようにするために…
終末	・よりよい生き方をしようとする意欲を高める。		

図1 浅見の提示する学習指導過程もとに筆者が作成

(2)の学習指導過程にある人間理解、他者理解、価値理解の3つの理解と、永田(2025)⁷提案する「発問の立ち位置・4区分」(図2)をかけ合わせて展開の部分について考えると、2通りの問い方に分類される。

・人間理解…自分の価値観（気持ちや考え）を確かめる。

- ・他者理解…互いの価値観を出し合い、比べ合う。

- ・ 価値理解…いろいろな気持ちや考えの中から、よりよいと思うものを見付け、自分の生き方に生かそうとする。

また、小学校解説では、3つの理解について、次のように説明されている。

- ・ 人間理解…道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること

- ・他者理解…道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること

- ・価値理解…人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること

そして、4 区分については、さらに、次のように分類できる。

- A, C…資料の世界、物語的思考
B, D…意見の世界、科学的思考

発問を作成する際には、これらを踏まえて12通りの問い方について考える。例えば、人間理解の場面で投影的な発問をした場合には、「自分だったらどう考えるか」と、主人公に重ねながら、

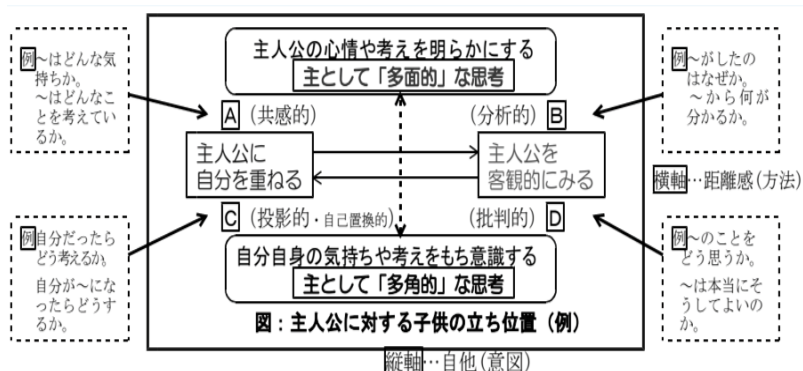


図2 発問の立ち位置・4区分

自分自身の価値観をもとに発言することになる。このとき、人間理解の場面では人間の弱さについて理解させたいという意図を考えると、この発問には難しさが見える。

また、この 4 つの発問をどの順番で問うかによっても授業の性質が大きく変わってくる。例えば、**D**→**A**→**B**授業は「教材の受け止めから、共感的な追求、分析的な整理へ」永田（2025）という流れの授業になるが、この授業の流れが子どもの学習したい追求の流れと大きく異なることもある。実際、永田（2025）はこの 4 区分の活用について以下の 2 点について述べている。

- ① 発問を「多面的・多角的」に多様な立ち位置に立って発想する。
- ② 子供の問題やテーマの追求の流れを想定して、それを活かした授業の展開を構想していく。

よって、授業者が生徒の実態をもとにこの 12 通りの問い方について検討することで、道徳科の授業での議論がより充実すると考える。

4 研究の今後

以上の基礎研究、仮説をもとに現在以下の 3 点を実施している。

- ・ 所属校の教師、生徒へのアンケート調査
- ・ 検証授業
- ・ 仮説を基にした授業構想シートの作成とシートを活用した所属校教員による検証授業

今後は、以上の結果について更なる教師と生徒へのアンケート調査を実施、これまでの検証を分析し、課題点を整理して研究を進めていく。

-
- 1 渡辺弥生『完全カラー図解 よくわかる発達心理学』ナツメ社, 2021 年
 - 2 坂上裕子, 山口智子, 林創, 中間玲子『問いからはじめる発達心理学〔改訂版〕—生涯にわたる育ちの化学』有斐閣, 2024 年
 - 3 浅見哲也・安井政樹『道徳授業の個別最適な学びと協働的な学び ICT を活用したこれからの授業づくり』明治図書, 2023 年
 - 4 東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構 上廣道徳・倫理教育研究開発推進室『これからの道徳教育と道徳授業を考える〈道徳教育関係基礎資料集〉』2025 年
 - 5 浅見哲也「道徳教育 B」講義資料, 2025 年
 - 6 浅見哲也「埼玉県道徳教育研究会 総会」講演資料, 2025 年
 - 7 永田繁雄「千葉県道徳授業スキルアップ研究会 第 14 回・道徳授業づくり研修会「道徳科の授業の充実をめざして」」講話資料, 2025 年

5 埼玉県道徳教育研究大会（ふじみ野大会）報告

第64回埼玉県道徳教育研究大会 ふじみ野大会

会場：ふじみ野市立葦原中学校

《研究主題》

「話し合い、認め合い、助け合い、共に築く道徳の実践を目指して」

～互いの個性と多様性を尊重する～



令和7年10月29日(水)

ふじみ野市立葦原中学校

(1) 研究概要

令和7年度 第64回埼玉県道德教育研究大会ふじみ野大会

研究主題

「話合い、認め合い、助け合い、共に築く道德の実践を目指して」

～互いの個性と多様性を尊重する～

ふじみ野市立葦原中学校



時を守り・場を清め・礼を尽くす温かな葦原中学校

ふじみ野市立葦原中学校

1 目指す学校像

時を守り・場を清め・礼を尽くす温かな葦原中学校

2 研究主題

「話し合い、認め合い、助け合い、共に築く道徳の実践を目指して」

～互いの個性と多様性を尊重する～

3 研究主題の設定理由

本校の学校教育目標は「知・徳・体のバランスのとれた『生きる力』をもった生徒の育成」である。この具現化に向けて、日々の教育活動に取り組んでいる。授業の充実を図り、毎時間の授業を大切に、実践を積み重ねている。生徒の多くは、学校生活に前向きに取り組む、日々充実感を覚えて過ごしている。その一方で、ここ数年、登校渋りや不登校生徒が増加する傾向にもある。この要因の1つとして、SNSの普及やコロナ禍による人間関係の希薄化、固定化、複雑化が考えられる。そこで、道徳科の授業を通じて、自他の考え方の違いに気づき、互いの個性や多様性を尊重し、よりよく生きようとする道徳的実践意欲を高めていける生徒の育成をねらいとして本主題を設定した。

4 研究の仮説

- ・ 話し合い活動を工夫し、自他の考えの共通点や相違点に気づかせることで、互いの個性や多様性を認め合い、尊重する態度が育つだろう。

5 研究の経過(令和5～7年度)

時 期	内 容
令和5年 4～5月	・ 第1回道徳アンケートの実施・分析
6月	・ 各クラスでの授業実践
9月29日	・ 校内授業研究会 学校指導訪問に係る事前授業及び授業研究会（各教諭） 〈指導講評〉 ふじみ野市教育委員会 学校教育課 指導主事 3名
10月	・ 埼玉県教育局要請訪問 授業研究会（1学年教諭 3名） 「近くにいた友」「トマトとメロン」「あふれる愛」 〈指導者〉 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 指導主事
11月13日	・ 研究発表会 研究授業（3学年教諭1名）「世界を動かした美」 〈指導者〉ふじみ野市立鶴ヶ丘小学校 教諭
12月	・ 第2回道徳アンケート実施（生徒・保護者）
令和6年 1月	・ 第2回道徳アンケート結果集計・分析
2月	・ 学校研究の成果と課題のまとめ
3月	・ 学校研究報告書のまとめと周知
4～5月	・ 講演会 〈指導者〉（株）先生の幸せ研究所 2名 ・ 次年度の研究の方向性の検討 ・ 道徳アンケートの実施・分析

6月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・校内授業研究会
	<p><指導者></p> <p>聖徳大学名誉教授</p> <p>埼玉県教育局西部教育事務所 指導主事</p>
8月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校事前職員研修（1学期の授業実践を踏まえて実施）
	<p><指導者></p> <p>聖徳大学名誉教授</p> <p>埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 指導主事</p> <p>埼玉県教育局西部教育事務所 指導主事</p>
11月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5・6年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校研究発表会
	<p><指導者></p> <p>聖徳大学名誉教授</p> <p>埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 指導主事</p> <p>埼玉県教育局西部教育事務所 指導主事</p> <p>ふじみ野市立福岡小学校 校長</p> <p>所沢市立東所沢小学校 校長</p>
令和7年 1～2月	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職等による道徳科の授業実施
	<p><授業者></p> <p>ふじみ野市立葦原中学校 校長 【3学年】</p> <p>ふじみ野市立葦原中学校 教頭 【1学年】</p> <p>ふじみ野市立葦原中学校 教務主任 【2学年】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳アンケートの実施・分析 ・研究の成果と課題の確認及び実績報告書等の作成
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向けた研究の検討
4～7月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内授業実践
8月 7日	<ul style="list-style-type: none"> ・第62回道徳教育研究会 実践発表（大宮ソニックシティ）
9月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業
	<p><指導者>鴻巣市立箕田小学校 校長</p>
10月 9日	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業
	<p><指導者>埼玉県立総合教育センター 指導主事</p>
10月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度 第64回埼玉県道徳教育研究大会ふじみ野大会 特別の教科 道徳 研究発表会
	<p><指導者>埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 指導主事</p>
11月～	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職等による道徳科の授業実施
12月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・学校研究の成果と課題のまとめ
令和8年 1月 8日	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県道徳教育研究会研究集録作成

6 研究の内容

「彩の国の道徳」について、各学年で年間指導計画の中に位置づけて活用を図る。仮説にせまる手立てとして、以下の3つに取り組む。1つめは、ICT機器や意見共有機能を使った話し合いを日々の実践に取り入れる。2つめは、振り返りの際に自他の考えの共通点や相異点について触れるよう授業構成を改善する。3つめは、保護者や地域の方々にも「話し合い活動」に参加していただき、多様な視点で物事を考えられるようにする。

(1) 発問および話し合いの工夫

- ア 「何を」考えさせたいのか明確にするために、発問を精査する。
- イ 「道徳的価値の理解を深める発問」をするために、「〇〇とはどのようなことだろう。」「〇〇はなぜ大切なのだろう」という発問をする。
- ウ 「道徳的価値の理解を基に自己を見つめる発問」をするため、「これまで、どうだったのか。」「これから、どうしたいのか。」という発問をする。
- エ 話し合い活動の形態を、4名もしくは6名とする。

(2) 「特別の教科 道徳」の授業の工夫

- ア 道徳科の時間の「ルール」を共通化する。(積極的に自分の意見を言うなど。)
- イ 教職員と全生徒の関係をつくるため、「ローテーション道徳」を実施した。
- ウ 教職員の「強み(得意・経験等)」を活かすためTT(チームティーチング)を実施した。
- エ ICT機器等を活用し、「話し合い活動」の後にAIの考え方を提示。より多角的な視点に触れるとともに、人間ならではの道徳的価値に対する考えや感じ方について気づけるようにした。

(3) 家庭・地域社会との連携

「話し合い活動」に、保護者や地域の方々、学校運営協会委員にも参加を依頼し、様々な世代の視点や意見をもとに、『考え・議論する』道徳や『互いの個性と多様性を尊重する』道徳をよりよいものにしようと試みた。

ア 実施に向けた事前準備として以下の取組を実施した。

- (ア) 事前に、学級通信、学校運営協議会、PTA本部役員会等で案内する。
- (イ) 12～20名程度が参加し、各班に2～3名程度の保護者や地域の方々が入る。
- (ウ) 「話し合い活動」の際は、生徒→保護者・地域の方々の順で話し合う。

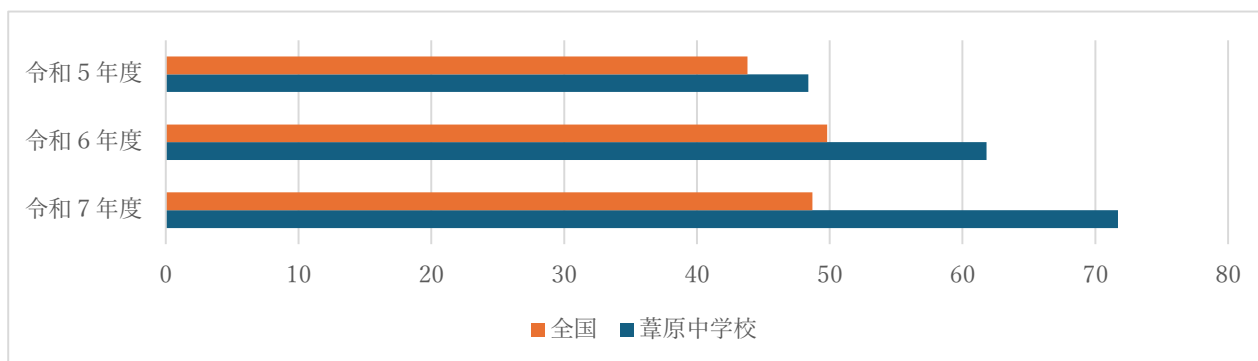
イ 生徒(○)・保護者等(◎)の感想(令和6年度『考え・議論する』道徳の実践より)

- 保護者や地域の方々の意見を聞き、そのような考え方もあるなと思いました。
- 生命の大切さについて、保護者の方の言葉が印象に残った。
- ◎ 話し合い活動に参加し、生徒の意見を聞き、私自身の「気づき」にもなりました。家に帰ってからも話の続きを食事の時にしました。
- ◎ いつも見かける中学生の考えがしっかりしていることに感心しました。

7 研究の成果と課題

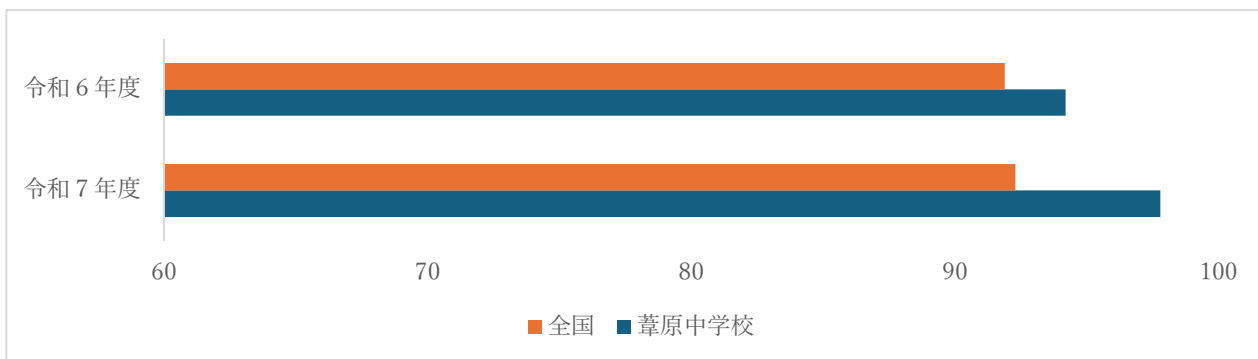
(1) 成果

令和5年度より継続して道徳研究を行うことで、全国学力・学習状況調査における「道徳」に関する質問では変容が見られた。以下は、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」という質問に対して、「よく取り組んでいる」と回答した割合の推移である。

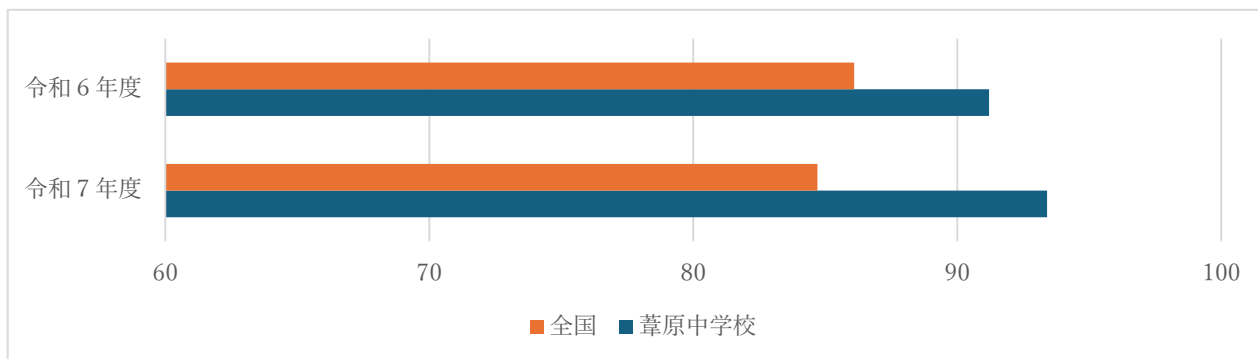


現3年生は、入学した令和5年度から「話し合い活動」に継続して取り組んでいる。そのため「よく取り組んでいる。」と回答した割合が過去3年間で最も高い。研究を継続して行ったことで、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」という質問に対して、「よく取り組んでいる」と回答した割合も増加している。

また、「互いの個性と多様性を尊重する」態度にも変容が見られる。以下のグラフは、「授業や学校生活では友だちや周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」という質問に対して、「よく取り組んでいる」「取り組んでいる」と回答した割合の変容の推移である。



さらに、以下のグラフは、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができる。」という質問に対して、「よく取り組んでいる」「取り組んでいる」と回答した割合の変容の推移である。



話し合い活動を継続することで、「周りの考えを大切にできる」「互いに協力できる」「自分の考えを深めることができる」「新たな考えに気づくことができる」といった質問項目で変容が見られた。

(2) 「第64回埼玉県道德教育研究会研究大会 ふじみ野大会」 参会者感想等

ア ICT 機器等の活用について

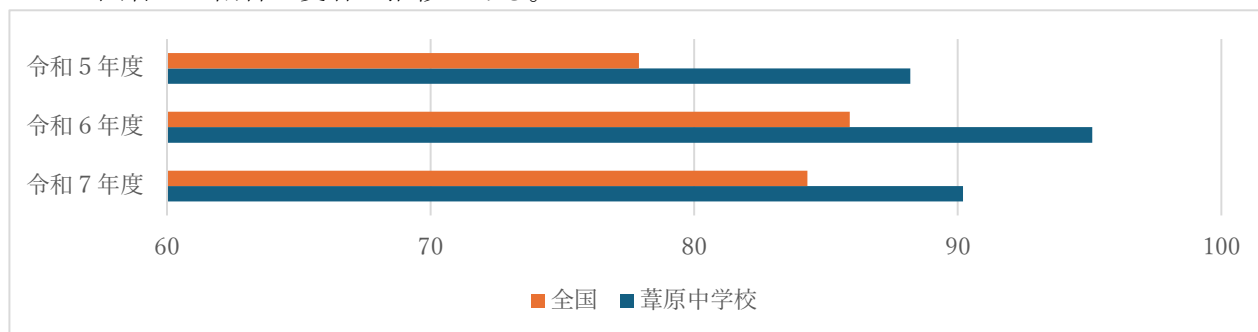
- (ア) 自分の考えを入力することで、発表しやすくなっているように感じられた。
- (イ) 他者の考えを見ることで、自分で言葉にすることが苦手な生徒も、自分と近い考えを見ることができる。そのため、自分の考えを深められると思いました。
- (ウ) AI と対話することで、自分が AI と同じ意見だと「自信」が付き、自分になかった意見だと「幅広い視点」となり、学びが広がると感じました。

イ 地域社会との連携について

- (ア) 地域の方がグループに入ることで、大人や人生の先輩という視点が入り、深まっているように感じました。
- (イ) 地域の方や保護者の方の考えを聞くことで、今の自分の実践していることが、外からどのように見られているのかを知ることができ、次の実践につなげる意欲につながっていくと感じました。
- (ウ) 先生と生徒の関係から日頃の学級経営が丁寧に行われていることが分かりました。授業では、生徒の実態をよく捉えた発問で、生徒が考え、議論することができていたと思います。また、地域人材を活用した授業はものごとを多角的に捉えるために非常に有効であったと思います。実践することは難しそうですが、地域人材も探してみたいと思います。

(3) 課題と今後の方針

「学んだことを次にどのように生かしていくか」、「学習した内容を、どのように次につなげることができるか。」ということに課題が見られる。以下のグラフは、「あなたの学級では、学校生活をよりよくするために話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めていますか。」という質問に対して、「よく取り組んでいる（決めている）」「取り組んでいる（決めている）」と回答した割合の変容の推移である。



この課題解決として、学んだことを他の教科や領域等と関連させることとともに、「彩の国の道德」等を活用し、日常生活と関わりの深い教材の活用を図る。本研究による成果と課題を踏まえ、今後も教育実践を継続することで、「話し合い、認め合い、助け合い、共に築く道德の実践を目指し、互いの個性と多様性を尊重する」生徒の育成を図る。

(2) 埼玉県道徳教育研究大会ふじみ野大会概要

【期 日】 令和7年10月29日(水)

【日 程】

13:00	13:40	14:30	14:45	15:15	15:35	16:35	16:40
受付	公開授業	休憩	全体会	研究概要	指導講評 及び 講演会	閉会 行事	

【公開授業】

学年・学級	授業者	題材名(内容項目)	出典
3年2組 (体育館)	大西 遼介	「言葉おしみ」 (B 礼儀)	新編 新しい道徳3 東京書籍

【全体会】

1 挨拶

会場校校長

ふじみ野市教育委員会

埼玉県道徳教育研究会

校 長 山崎 祐一 様

教育長 朝倉 孝 様

会 長 清水 良江

2 来賓及び指導者の紹介

3 研究の概要説明

4 グループ協議及び質疑応答等

5 指導講評及び講演

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課

指導主事 土井 鉄平 様

6 埼玉県道徳教育研究会トロフィー返還



(3) 研究授業指導案

第3学年 特別の教科「道徳」 学習指導案

令和7年10月29日

3年2組 体育館

在籍生徒数 33名

授業者 大西 遼介

1 主題名 挨拶や返事に込められた思いとは 内容項目【B 礼儀】

2 ねらい 礼儀とは形と心が溶け合ったものであることを理解し、相手に対する敬愛の念を示そうとする態度を養う。

教材名 「言葉おしみ」(出典:「新編 新しい道徳」東京書籍)

3 研究主題

「互いの個性や多様性を認め合い、希望をもってよりよく生きようとする生徒の育成」

～「考え、議論する道徳」の実践を通して～

4 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

礼儀の形は時代や社会によって変わる相対的な面をもっている一方で、その精神は伝統として受け継がれるものもある。礼儀は、相手を人間として尊重する精神の現れであることを十分に理解させ、時と場に応じて主体的に適切な言動が行える態度を育てていくことが求められる。指導にあたっては、話し合い活動に家庭・地域の方にも参加していただくことで、多様な考え方や感じ方があることを知り、自分の考えを深めることで、ねらいにせまりたい。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

中学一年生では、「愛情貯金をはじめませんか」、中学二年生では「挨拶は言葉のスキンシップ」を教材として、挨拶が人間関係や社会生活を円滑にするものであること、礼儀が相手を尊重し敬愛する気持ちに基づいていることを学習した。三年生となり、葦原中学校の「顔」として行事や学校生活の中心として活動してきた。学校内において生徒の元気のよい挨拶は保護者・地域の方からも高い評価を得ている。本時の学習を通して、形だけでなく、相手に対して敬愛の念を示す礼儀の心について、家庭・地域の方と一緒に改めて考えさせたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、日常生活における3つの場面と作者の体験で構成されている。1つ目は駅の改札口での場面、2つ目はトイレでの順番待ちの場面、3つ目は病院の待合室での場面、そして作者が電車で席を譲ろうとした時の経験である。いずれも投げかける言葉と受け止める言葉のやりとりについて考えさせられる場面である。この教材と家庭・地域の方の話を基に多角的・多面的な視点で考えさせることで、礼儀とは形と心が溶け合ったものであることを理解させ、相手に対する敬愛の念を示そうとする態度を養いたい。

以上のことから、本主題を設定した。

5 評価の視点

- ・対話を通じて多様な視点から考え、道徳的価値として自分の考えを深めている。(発言、観察、ワークシート、授業支援システム「スクールタクト」)
- ・道徳的価値をもとに自分を深く内省している。(観察、ワークシート、スクールタクト)

6 学習指導過程

	学習活動 ○主な発問	・予想される 生徒の反応	●指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<u>1、道徳的価値に対する関心を高める。</u> ○事前アンケートの結果を示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の挨拶を評価するとしたら何点ですか？ ・今日、誰に挨拶をしましたか？ ・今日、どんな挨拶をしましたか？ 		●どんな気持ちで挨拶をしたかを考えさせる。 ●なぜ、「おはよう」と「お早くからご苦労様です」を省略したか、あえて伝えないことについても気付かせる。 ●地域・保護者の方にも簡単に答えてもらう。
展開	<u>2、教材「言葉おしみ」を読み、話し合う。</u> ○それぞれの場面について考えてみよう。 ○（改札機の前）彼女が感動したのはどうしてだろう。 ○（トイレの列）トイレの雰囲気が変わったのはどうしてだろう。 <補助発問> ○自分が背後に並んでいたらどうだろう。 【道徳的価値の理解を深める発問】 ○どうして言葉おしみをしてしまうのだろう。挨拶や返事をするときに大切にしたいことは何だろう。	<改札機の前> <ul style="list-style-type: none"> ・やさしさを感じたから。 ・受け答えができたから。 <トイレの列> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの人にも良い雰囲気が伝わったから。 ・何と云えばいいかわからないから。 ・相手の気持ちを考えること。 	●ゆっくりと分かりやすく範読する。 ●時間をかけずに進めていく。 ●保護者や地域の人々のお話を聞きながら話し合う。生かそうとする人々の姿を多面的・多角的に考えさせる。 ☆対話を通じて多様な視点から考え、道徳的価値として自分の考えを深めている。(発言、観察、ワークシート、スクールタクト)

生成AI (MicrosoftCopilot)に教材を読み込ませ、生徒と同じ発問を入力し、AI の回答を示す。

	<u>3、自己を見つめる。</u> 【道徳的価値の理解を基に自己をみつめる発問】 ○これからどんなことを大切にしたいですか。それはなぜですか。		●グループでの話し合い活動には保護者や地域の人々に参加してもらう。 ●スクールタクトに話し合いの内容を入力させ、共有する。 ☆道徳的価値をもとに自分を深く内省している。(観察、ワークシート、スクールタクト)
終末	<u>4、教師の説話を聞く。</u>		●教師と AI がやりとりをしながら説話をする。生徒への発問を AI にも回答させ、人間と AI を対比させる。

7 他の教育活動との関連

事前指導	アンケートの実施。
事後指導	スクールタクトを共同閲覧モードに設定し、学級全員で共有できるようにする。
家庭・地域との連携	アンケートの実施。授業への参加。学級通信等での感想紹介。

8 板書計画

<div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> スクリーン (スクールタクトの画面を表示する。) </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 5px;"></div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px;"></div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px;"></div> </div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; text-align: center; margin-top: 10px; padding: 5px;"> * 生徒の回答が表示される。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> 言葉おしめ </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">これからどんなことを大切にしたいですか。 それはなぜですか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">どうして言葉おしめをしようのだろう。 挨拶や返事をするときに大切にしたいことは何だろう。</p> </div> </div>
--	---

6 道德教育研究大会報告等

第61回全国小学校道德教育研究大会 広島大会の報告

報告者 埼玉県道德教育研究会会長（鴻巣市立箕田小学校長） 清水 良江 先生

第59回全日本中学校道德教育研究大会 岐阜大会の報告

報告者 埼玉県道德教育研究会副会長（宮代町立百間中学校長） 栗原 利夫 先生

第54回関東甲信越中学校道德教育研究大会 山梨大会の報告

深谷市立幡羅中学校 教諭 鴻野 光伸 先生

第59回関東地区小学校道德教育研究大会 茨城大会の報告

蕨市立塚越小学校 教諭 島藤 和也 先生

第61回全国小学校道德教育研究大会 広島大会の報告

鴻巣市立箕田小学校 校長 清水 良江
(埼玉県道德教育研究会会長)

令和7年11月20日(木)、21日(金)の両日において『自己を見つめ、共によりよく生きる児童を育む道德教育～互いの違いを尊重し合い、対話を通して考えを深める道德科の授業づくり～』を大会主題に第61回全国小学校道德教育研究大会(中部地区大会、広島県大会を兼ねる)が広島市で開催されました。

第1日目は原爆ドームを望む広島国際会議場にて開会行事と課題別分科会、記念講演が行われました。6の分科会が開催され、私は第2分科会『『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を図る道德科の授業づくり』に参加しました。「個別最適な学び」の実現のためには子供が自己の生き方に関する課題をいかに自分事としてとらえ、主体的に考える授業にできるか。そのために導入で「～することは大切か」「自分はできているか」の二つの視点で考えさせ、実際の思いと実生活でのずれから課題を意識化させることの大切さについて提案がなされました。記念講演では、特定非営利活動法人ANT-Hiroshima理事長渡部朋子氏による「被爆樹木と子どもたち」を拝聴しました。平和教育に力を注ぎ、被爆樹木の存在とその種や苗を平和の象徴として国内外に広く伝え続ける姿に感銘を受けました。

2日目は広島市立石内北小学校での公開授業と研究協議、指導講演でした。学校は広島駅から車で約40分、山を切り開いた新しい住宅地の中にありました。5年生の「友のしょうぞう画」を1時間参観しましたが、教師をファシリテーターとして、児童同士の語り合いを中心とした「対話を通して考えを深める」授業が展開されていました。後段では時間をかけて扱えるように授業が組み立てられており、振り返りを十分行うことで一人一人が自分に向き合い、自らの成長を実感できるよう、指導の工夫がなされていました。

堀田竜次先生による指導講話では、「多様な子どもたちの『深い学び』を確かなものに」していくために必要なことについて、9月に示された「論点整理」の内容を基に具体的にご指導をいただきました。

広島市の学校は平和教育が学校経営の中核に据えられており、「対話による問題解決」や「平和の『種』は対話で育つ」「対話は平和」など、多くの場面で「対話」することの大切さを感じた研究大会でした。

第59回全日本中学校道德教育研究大会 岐阜大会の報告

宮代町立百間中学校 校長 栗原 利夫
(埼玉県道德教育研究会副会長)

令和7年11月27日(木)、28日(金)に『自他ともによりよい生き方を求め、実践する生徒を育てる道德教育はどうあるべきか』を大会主題に掲げ第59回全日本中学校道德教育研究大会が開催されました。

1日目は岐阜市立長良中学校で3学年10学級全ての公開授業が行われ、各学年の研究協議が行われました。私は全ての公開授業を参観しましたが、日頃からの授業の蓄積を強く感じることができました。それは、大会主題にもある「自他ともによりよい生き方を求め」が、授業の中で着実に定着しているからです。中学校道德の授業は、「挙手が少なく書いて発表する。」というケースも少なくありませんが、長良中学校の生徒は、全ての学級がよく発表し、友達の意見に耳を傾け、それに対してまた意見するという「考え、議論する」を楽しむように取り組めていました。また、発表時には、発表者の方向に体を傾け、うなずいたり、拍手をしたりする様子が全ての学級で定着していました。道德教育の目標である「自他ともによりよく生きる」が、研究主題のとおり研究し実践してきたことが、この成果に繋がっていると考えられます。また、発問の仕方の工夫がよく研究されており、中学生が「考え、議論したくなる」発問となっている点も見逃せません。

2日目は、ホテルグランヴェール岐阜を会場に、基調提案、課題別分科会、文部科学省の大平剛生教科調査官により指導講話が行われました。講話の演題は「道德教育の一層の充実・発展に向けて」と題され、次期学習指導要領改定に向けた検討体制の取組、WG(ワーキンググループ)のお話がありました。検討中なので決定事項ではないと前置きしながらも、「考え、議論する道德科」の実装を図るため、

- ① 心情理解に偏った予定調和型の授業の問題
- ② 実社会や現代的な諸課題を踏まえ複数の内容項目を関連付けた学び方の在り方
- ③ 「問題解決的な学習」「体験的な学習」のこれまでの実践を踏まえた考え方や示し方

について情報提供頂きました。私は、これらは、学校現場で悩んでいる道德教育の課題であると感じ、これからの道德教育の明るい展望に繋がると嬉しく思いました。以上、大変学びの多い2日間となりました。

第54回関東甲信越中学校道德教育研究大会 山梨大会の報告

報告者 深谷市立幡羅中学校
教諭 鴻野 光伸

本大会は、令和7年10月24日(金)に、「多様化、個性化する社会の中で、ともに考え、よりよく生きる力を育む道德教育」を大会主題に掲げ、オンラインで各地に配信される形で盛大に開催されました。

授業公開は、あらかじめ撮影された3本の授業動画の配信という形式で行われ、大会主題を受け、すべての授業が「生徒同士、さらに教師とともに考える」、「自己を見つめ、よりよく生きることについて考えを深める」取組の工夫が見られました。

課題別分科会は、第1分科会「地域・社会とともにある道德教育」、第2分科会「道德における評価の工夫」、第3分科会「ICTを活用した道德の授業」、第4分科会「ウェルビーイングを目指した道德の授業」の全4部会で、紙上提案の形式で開催されました。埼玉県は第1分科会で、「地域・社会とともにある道德教育～地域・社会とのつながりをもとに、よりよい生き方について考えを深める生徒の育成を目指して～」というテーマでの提案でした。この提案について、山梨県教育庁義務教育課教育指導担当指導主事 平尾和樹 様より、埼玉県や深谷市、さらには幡羅中学校の取組についてご指導をいただき、特に「地域教材や人材の開発・活用は、県や市の教材と連動した学習指導要領の趣旨に沿う取組であり、学校・家庭・地域をつなぎながら、自己有用感や主体性を育むことにつながる大変参考になる実践であった。」と講評をいただきました。

最後に、「道德教育のさらなる改善・充実を目指して」という題目で、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 大平剛生 様から指導講話をいただきました。急激な人口減少や高齢化、技術革新など先行きが不透明な社会を生きる中学生にとって、道德性を育むことの重要性を中心に、今後の道德教育に必要なことについて多くのご示唆をいただきました。

現在社会の中で多様化、個性化が加速度的に進んでいます。そのような社会にあって、よりよく生きる力を育むために、他者とともに考えを深めていくことの重要性を強く感じた大会でした。

第59回関東地区小学校道德教育研究大会 茨城大会の報告

報告者 蔵市立塚越小学校
教諭 島藤 和也

令和7年11月28日(金)、「多様な価値観に触れながら 心豊かで共に高め合える 道德科の授業」を大会主題に掲げ、土浦市立土浦第二小学校にて開催されました。当日は、全学級公開授業をはじめ、全体会、課題別分科会、記念講演が盛大に行われました。

土浦第二小学校では、大会主題を受け、道德科の特質を踏まえながら、児童一人一人が多様な価値観に触れ、自らの生き方について主体的に考えることができる授業づくりが進められていました。全ての授業の指導案には、「ねらいとする価値について考える」という項目が位置付けられており、学習指導要領解説の言葉を基に、児童の実態や教材と重ねながら、教師自身がねらいとする価値を明確にすることで、児童に何を、どのように問うのかを検討できるようにしていました。文章による整理だけでなく図式化するなど、教師の思考の整理に役立てられる工夫が随所に見られました。

課題別分科会では全6分科会が開催されました。第6分科会「道德科の指導と評価Ⅱ」では、熊谷市立江南北小学校主幹教諭 田島達也 先生から語り合いを重視した実践が提案されました。日常生活における葛藤場面について、縦割りの異年齢集団で考えを交流し合う活動を通して、児童が自身や他者の思いや考えに向き合い、多面的・多角的に考えを膨らませていく「TKD集会(とことん考え、懇々語り、どんどん)」の実践が紹介され、鴻巣市立箕田小学校校長 清水良江先生より指導助言をいただきました。

最後に、「自己を見つめ、考え、共によりよく生きる子どもを育てる道德教育の推進・充実について」と題し、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 堀田竜次 様よりご講演をいただきました。先生は、中央教育審議会教育課程企画特別部会において示された、次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方について紹介されました。その中で特に重要な視点として、「多様な子供たちの『深い学び』を確かなものにする」ことが示され、①深い学びの実装、②多様性の包摂、③実現可能性の確保の三点が、今後の教育課程を考える上での柱であることが強調されました。

子供たちが「どのように生きるか」を考える時間の重要性とともに、その学びを支える教師自身の姿勢を問い直していく必要性を強く感じた研究大会でした。

7 「道徳教育の研究」第56集の編集委員の一覧(順不同)

(※ 企画推進部員より)

鈴木久美子	行田・埼玉中	寺井 次郎	加須・志多見小	福田 和己	羽生・西中
本多 斎士	長瀬・長瀬第一小	飛川 成正	秩父・高篠中	坂口 洋美	さいたま・美園中
高橋 伸治	川口・安行東小	秋山加奈子	越谷・蒲生小	小林 伸介	日高・高麗川小
清水美津子	幸手・東中	前田友美子	越谷・蒲生小	伊藤さゆり	吉川・栄小

編集後記

本年度も「道徳教育の研究」第56集を発行することができました。発行にあたりましては、大勢の皆様にご協力をいただきました。ここに、心より感謝申し上げます。

さて、学習指導要領が改訂され、道徳科がスタートし、7年が過ぎました。道徳科では教科書を主たる教材として使用し「考え、議論する道徳」道徳授業の充実、児童生徒の健やかな成長に資する評価の工夫、心の教育推進に向けて取り組むべき課題は山積しており、各校での取組の一層の充実が求められています。

そこで、本研究会では、令和7年度の研究主題を「一人一人のよさや可能性を引き出す道徳教育の創造」とし、道徳科に係る見識豊かな講師の先生方による御講演、夏季研修会での授業充実に係る研修、研究委嘱校による先進的な授業研究等、学校現場に生きる活動の推進を目指して参りました。特に本研究大会である「第64回埼玉県道徳教育研究大会」は、ふじみ野市立葦原中学校で開催され、県内各地区からの参加者により、大盛況の大会となりました。

1年間の取組をまとめた本冊子が、学校教育全体で取り組む道徳教育や道徳科の授業充実の一助として、県内の多くの先生方に御活用いただくことを編集委員一同、切に望みます。

最後に、文部科学省初等中等局教育課程課教科調査官 堀田竜次先生、十文字学園女子大学教授 浅見哲也先生、埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事 土井鉄平先生、さいたま市教育委員会教育課程指導課主席指導主事 穴戸貴久先生には、格別の御指導をいただきました。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

道徳教育の研究

第56集（令和7年度）

発行日 令和8年3月25日

発行 埼玉県道徳教育研究会

編集 埼玉県道徳教育研究会
企画推進部
行田市埼玉4143-1
行田市立埼玉中学校内
TEL 048 - 559 - 4204

印刷 ポプラ社印刷株式会社
TEL 048 - 572 - 9415
